

岡 遺 跡 群

内陸工業用地（大分市岡地区）造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

（内無川1地区、内無川2地区、内無川3地区、内無川4地区、上中尾地区、林頭地区、
善福寺1地区、善福寺2地区）

2007

大分県教育庁埋蔵文化財センター



岡遺跡群調査区空中写真

序 文

本書は、県教育委員会が大分県土地開発公社の依頼を受けて実施した、内陸工業用地（大分市岡地区）造成事業に伴う岡遺跡群おか いせきぐんの発掘調査報告書です。

遺跡の所在する大分市岡地区は、大野川右岸の丹生台地上にあつて、古代の「海部郡丹生郷」あまべぐんにゅうごうに属しており、豊かな自然と遺跡に恵まれています。今回調査した岡遺跡群は、海部郡内でも国指定史跡亀塚古墳をはじめ、野間古墳群、丹生遺跡群など多数の古墳や遺物散布地が集中する地区にあります。

発掘調査の結果、弥生時代集落、古墳、炭窯等や土器・石器等の遺物が発見され、当地における人々の様々な生活の跡をみることができました。本書が埋蔵文化財に対する保護・啓発、さらには学術研究の一助となれば幸いです。

終わりに、この発掘調査に多大な御支援と御協力をいただきました関係各位に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成19年3月30日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所 長 小 玉 学 司

例 言

1. 本報告書は、大分県教育委員会が平成17年度に実施した、内陸工業用地造成事業に伴う、岡遺跡群の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、大分県土地開発公社の依頼を受けて大分県教育委員会が実施した。
3. 遺物の整理作業、実測・トレース・写真撮影は、教育庁埋蔵文化財センター職員、教育庁文化課職員、教育庁埋蔵文化財センターの整理作業員が行った。
4. 出土遺物及び関係資料は、教育庁埋蔵文化財センターで保管している。
5. 本書で使用した地形図は国土地理院作成のものを利用した。
6. 本書の執筆は、調査を担当した教育庁埋蔵文化財センター、教育庁文化課の職員が行った。執筆分担は次のとおりである。
栗田勝弘（第1章2節・3節・4節、第2章、第3章4節）
小林昭彦（第3章5節）
小柳和宏（第3章8節、第5章1節）
高橋徹（第3章6節、第5章2節）
後藤一重（第1章1節、第3章1節・2節・3節・7節）
7. なお、第4章の理化学的分析は(株)加速器分析研究所・(株)パリノ・サーヴェイに委託した。
8. 本書の編集は栗田勝弘・小林昭彦・小柳和宏が行った。

目 次

第1章 調査の経過と概要	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査団の構成	2
第3節 発掘調査の経過	2
第4節 発掘調査の概要	2
第2章 遺跡の立地と環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	
第1節 内無川1地区	8
1 調査の概要	8
2 弥生時代の遺構・遺物	10
3 小 結	15
第2節 内無川2地区	18
1 調査の概要	18
2 塚の調査	19
3 小 結	25
第3節 内無川3地区	28
1 調査の概要	28
2 弥生・古墳時代の遺構・遺物	30
3 古代の遺構・遺物	36
4 小 結	37
第4節 内無川4地区	42
1 調査の概要	42
2 基本層序	42
3 調査の成果	44
4 小 結	91
第5節 上中尾地区（岡1号墳、南地区）	121
1 調査の概要	121
2 古墳の調査	121
3 南地区の調査	130
4 小 結	132
第6節 林頭地区（岡2号墳）	141
1 調査の概要	141
2 古墳の調査	141
3 その他の遺構	148
4 小 結	148
第7節 善福寺1地区	157
1 調査の概要	157
2 古代の遺構・遺物	159
3 近世・近代の遺構・遺物	160
4 小 結	164
第8節 善福寺2地区	167
1 調査の概要	167
2 遺構と遺物	168
3 小 結	192
第4章 理化学的分析	
第1節 放射性炭素年代測定結果	208
第2節 試料分析結果	209
第5章 総 括	
第1節 岡遺跡群出土弥生土器の年代的位置づけ	237
第2節 岡1号墳、2号墳について	243

図版目次

第1図	遺跡位置図	5
第2図	岡遺跡群と周辺の主要遺跡位置図(1/25,000)	6
第3図	岡遺跡群と周辺の地形	7
第4図	内無川1地区調査区位置図と周辺地形	8
第5図	内無川1地区遺構配置図	9
第6図	内無川1地区1号住居跡(1/60)	10
第7図	内無川1地区1号住居跡出土遺物(1)(1/4)	11
第8図	内無川1地区1号住居跡出土遺物(2)(1/2)	11
第9図	内無川1地区2号住居跡(1/60)	12
第10図	内無川1地区2号住居跡出土遺物(1/4)	12
第11図	内無川1地区3号住居跡(1/60)	13
第12図	内無川1地区4号住居跡(1/60)	13
第13図	内無川1地区5号住居跡(1/60)	14
第14図	内無川1地区1号土坑、2号土坑(1/30)	15
第15図	内無川2地区調査区位置図と周辺地形	18
第16図	内無川2地区調査前の状況(1/200)	19
第17図	内無川2地区塚及び塚断面土層図(1/60)	20
第18図	内無川2地区第1面の遺構(1/60)	21
第19図	内無川2地区1号遺構(1/30)	22
第20図	内無川2地区第2面の遺構(1/60)	23
第21図	内無川2地区3号遺構(1/30)	24
第22図	内無川2地区3号遺構土層図(1/30)	24
第23図	内無川3地区調査区位置図と周辺地形	28
第24図	内無川3地区遺構配置図(1/200)	29
第25図	内無川3地区1号土坑(1/40)	30
第26図	内無川3地区2号土坑(1/40)	31
第27図	内無川3地区2号土坑出土遺物(1/4)	31
第28図	内無川3地区1号墓(1/30)	32
第29図	内無川3地区2号墓(1/30)	32
第30図	内無川3地区2号墓出土遺物(1/2)	33
第31図	内無川3地区3号墓(1/30)	33
第32図	内無川3地区4号墓(1/30)	34
第33図	内無川3地区4号墓出土遺物(1/4)	35
第34図	内無川3地区岡3号墳(1/100)	35
第35図	内無川3地区岡3号墳周辺出土遺物(1/4)	36
第36図	内無川3地区1号炭窯(1/60)	37
第37図	内無川4地区遺構配置図(1/600)	43
第38図	内無川4地区1号竪穴実測図(1/60)	44
第39図	内無川4地区1号竪穴出土遺物実測図(1/4)	44
第40図	内無川4地区2号竪穴実測図(1/60)	45
第41図	内無川4地区2号竪穴出土遺物実測図(1/4)	45
第42図	内無川4地区3号竪穴実測図(1/60)	46
第43図	内無川4地区3号竪穴出土遺物実測図(1/4)	47
第44図	内無川4地区4号竪穴実測図(1/60)	48
第45図	内無川4地区4号竪穴出土遺物実測図(1/4)	48

第46図	内無川4地区5号竪穴実測図(1/60).....	49
第47図	内無川4地区5号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	50
第48図	内無川4地区6A号竪穴実測図(1/60).....	51
第49図	内無川4地区6A号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	52
第50図	内無川4地区6B号竪穴実測図(1/60).....	53
第51図	内無川4地区6B号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	53
第52図	内無川4地区7号竪穴実測図(1/60).....	54
第53図	内無川4地区7号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	54
第54図	内無川4地区8号竪穴実測図(1/60).....	56
第55図	内無川4地区8号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	57
第56図	内無川4地区8号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	58
第57図	内無川4地区9号竪穴実測図(1/60).....	59
第58図	内無川4地区9号竪穴内土坑(P-2)実測図(1/30).....	60
第59図	内無川4地区9号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	60
第60図	内無川4地区9号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	60
第61図	内無川4地区10号竪穴実測図(1/60).....	61
第62図	内無川4地区10号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	61
第63図	内無川4地区11号竪穴実測図(1/60).....	62
第64図	内無川4地区12号竪穴実測図(1/60).....	62
第65図	内無川4地区12号竪穴出土遺物実測図(1/4).....	62
第66図	内無川4地区1号カメ棺墓実測図(1/10).....	63
第67図	内無川4地区1号カメ棺土器実測図(1/4).....	64
第68図	内無川4地区2号カメ棺墓実測図(1/10).....	65
第69図	内無川4地区2号カメ棺土器実測図(1/4).....	66
第70図	内無川4地区3号カメ棺墓実測図(1/10).....	67
第71図	内無川4地区3号カメ棺土器実測図(1/4).....	68
第72図	内無川4地区4号カメ棺墓実測図(1/10).....	68
第73図	内無川4地区4号カメ棺土器実測図(1/4).....	69
第74図	内無川4地区5号カメ棺墓実測図(1/10).....	69
第75図	内無川4地区5号カメ棺土器実測図(1/4).....	69
第76図	内無川4地区1号土坑実測図(1/40).....	70
第77図	内無川4地区1号土坑出土遺物実測図(1/4).....	71
第78図	内無川4地区2号土坑実測図(1/30).....	72
第79図	内無川4地区3号土坑実測図(1/30).....	72
第80図	内無川4地区4号土坑実測図(1/30).....	73
第81図	内無川4地区4号土坑出土遺物実測図(1/4).....	73
第82図	内無川4地区5号土坑実測図(1/30).....	73
第83図	内無川4地区6号土坑実測図(1/30).....	74
第84図	内無川4地区7号土坑実測図(1/30).....	74
第85図	内無川4地区8号土坑実測図(1/30).....	74
第86図	内無川4地区9号土坑実測図(1/30).....	75
第87図	内無川4地区10号土坑実測図(1/30).....	75
第88図	内無川4地区11号土坑実測図(1/30).....	76
第89図	内無川4地区12号土坑実測図(1/10).....	76
第90図	内無川4地区1号集石実測図(1/30).....	77
第91図	内無川4地区1号集石出土遺物実測図(1/4).....	77
第92図	内無川4地区2号集石実測図(1/30).....	78

第93図	内無川4地区3号集石実測図(1/30).....	78
第94図	内無川4地区4号集石実測図(1/30).....	79
第95図	内無川4地区1号炭窯実測図(1/60).....	79
第96図	内無川4地区2号炭窯実測図(1/60).....	80
第97図	内無川4地区3号炭窯実測図(1/60).....	80
第98図	内無川4地区4号炭窯実測図(1/60).....	81
第99図	内無川4地区5号炭窯実測図(1/60).....	81
第100図	内無川4地区6号炭窯実測図(1/60).....	81
第101図	内無川4地区7号炭窯実測図(1/60).....	82
第102図	内無川4地区調査区出土遺物実測図1(1/4).....	83
第103図	内無川4地区調査区出土遺物実測図2(1/4).....	84
第104図	内無川4地区調査区出土遺物実測図3(1/4).....	85
第105図	内無川4地区調査区出土遺物実測図4(1/4).....	87
第106図	内無川4地区調査区出土遺物実測図5(1/4).....	88
第107図	内無川4地区調査区出土遺物実測図6(1/4).....	89
第108図	内無川4地区調査区出土遺物実測図7(1/4).....	90
第109図	上中尾地区地形図(完掘時)(1/600).....	122
第110図	上中尾地区岡1号墳測量図(完掘時)(1/200).....	123
第111図	上中尾地区トレンチ1.2 土層断面図(1).....	124
第112図	上中尾地区トレンチ1.2 土層断面図(2).....	124
第113図	上中尾地区調査区西端部土層断面(道路断面).....	124
第114図	上中尾地区トレンチ3・5・8・9・10・11・13・14 土層断面図.....	125
第115図	上中尾地区岡1号墳主体部実測図(1/40).....	127
第116図	上中尾地区岡1号墳石棺実測図.....	128
第117図	上中尾地区1号土坑及び周辺部出土遺物実測図.....	129
第118図	上中尾地区1号土坑実測図(1/30).....	129
第119図	上中尾地区1号竪穴実測図(1/60).....	130
第120図	上中尾地区1号土坑及び周辺部出土遺物実測図(1/4).....	130
第121図	上中尾地区1・2号住居跡、土坑1・2実測図(1/60).....	131
第122図	林頭地区岡2号墳測量図(調査前).....	142
第123図	林頭地区岡2号墳測量図(完掘時).....	143
第124図	林頭地区東西トレンチ土層断面図.....	144
第125図	林頭地区東西トレンチ土層断面図(拡大図).....	144
第126図	林頭地区南北トレンチ土層断面図.....	144
第127図	林頭地区南北トレンチ土層断面図(拡大図).....	144
第128図	林頭地区岡2号墳主体部実測図(1/40).....	146
第129図	林頭地区岡2号墳石棺実測図(1/30).....	147
第130図	林頭地区岡2号墳出土遺物実測図.....	148
第131図	林頭地区炭窯実測図.....	148
第132図	善福寺1地区位置図と周辺地形.....	157
第133図	善福寺1地区遺構配置図(1/250).....	158
第134図	善福寺1地区1号土坑(1/30).....	159
第135図	善福寺1地区2号土坑(1/30).....	159
第136図	善福寺1地区2号土坑出土遺物(1/3).....	160
第137図	善福寺1地区1号溝出土遺物(1/3).....	160
第138図	善福寺1地区1号溝土層図(1/30).....	160
第139図	善福寺1地区2号溝(1/40).....	161

第140図	善福寺1地区2号溝出土遺物(1/3)	162
第141図	善福寺1地区3号溝土層図(1/30)	162
第142図	善福寺1地区3号土坑・4号土坑(1/30)	163
第143図	善福寺1地区3号土坑出土遺物(1/3)	163
第144図	善福寺1地区1号建物跡(1/60)	164
第145図	善福寺2地区遺構配置図(1/600)	167
第146図	善福寺2地区第1号住居跡(1/60)	168
第147図	善福寺2地区第1号住居跡出土遺物(1)(1/4)	168
第148図	善福寺2地区第1号住居跡出土遺物(2)(1/2)	169
第149図	善福寺2地区第2号住居跡(1/60)	169
第150図	善福寺2地区第2号住居跡出土遺物(1/4)	170
第151図	善福寺2地区第3号住居跡(1/60)	171
第152図	善福寺2地区第3号住居跡出土遺物(1/4)	172
第153図	善福寺2地区第4号住居跡(1/60)	173
第154図	善福寺2地区第4号住居跡出土遺物(1)(1/4)	174
第155図	善福寺2地区第4号住居跡出土遺物(2)(1/4、1/2)	175
第156図	善福寺2地区第5号住居跡(1/60)	176
第157図	善福寺2地区第5号住居跡出土遺物(1/4)	177
第158図	善福寺2地区第6号住居跡(1/60)	178
第159図	善福寺2地区第6号住居跡出土遺物(1/4)	179
第160図	善福寺2地区第7号住居跡(1/60)	180
第161図	善福寺2地区第7号住居跡出土遺物(1/4、1/2)	180
第162図	善福寺2地区第8号住居跡(1/60)	181
第163図	善福寺2地区第8号住居跡出土遺物(1/4)	182
第164図	善福寺2地区第9号住居跡(1/60)	182
第165図	善福寺2地区第9号住居跡出土遺物(1/4)	183
第166図	善福寺2地区第10号住居跡(1/60)	184
第167図	善福寺2地区第1号掘立柱建物跡(1/60)と出土遺物(1/4)	185
第168図	善福寺2地区第1、2号炭窯(1/60)	186
第169図	善福寺2地区第3、4号炭窯(1/60)	187
第170図	善福寺2地区土坑(1/60)	189
第171図	善福寺2地区土坑出土遺物	190
第172図	善福寺2地区その他の出土遺物(112のみ1/2、その他は1/4)	191
第173図	火山ガラスの屈折率測定結果	221
第174図	石材現地調査位置図(国土地理院発行2万5千分1地形図「鶴崎」を使用)	224
第175図	Le Maitre (1989) のTAS (total alkali-silica) 図	226
第176図	EPMAによる分析結果(金属鉄)	230
第177図	EPMAによる分析結果(介在物)	230

表 目 次

第1表	岡遺跡群と周辺の主要遺跡	7
第2表	テフラ分析結果	221
第3表	構成鉱物量比表	225
第4表	全岩化学組成(重量%)	227
第5表	樹種同定結果	228
第6表	非金属介在物の成分分析結果(重量%)	230

写真図版目次

写真図版1	16	写真図版15	98
1号住居跡出土遺物 1号住居跡		内無川4地区 9号竪穴出土状態(東から)	
2号住居跡		内無川4地区 10号竪穴出土状態(東から)	
写真図版2	17	写真図版16	99
3号住居跡 4号住居跡 5号住居跡		内無川4地区 11号竪穴、10号土坑出土状態(北から)	
写真図版3	26	写真図版17	100
調査前の状況 第1面完掘状況		内無川4地区 1号カメ棺墓出土状態(西から)	
1号遺構完掘状況		第67図-1(1号カメ棺)	
写真図版4	27	第67図-2(1号カメ棺)	
3号遺構完掘状況 3号遺構埋土		写真図版18	101
塚盛土の状況		内無川4地区 2号カメ棺墓出土状態(南から)	
写真図版5	38	第69図-1(2号カメ棺)	
調査区全景 1号炭窯完掘状況		第69図-2(2号カメ棺)	
写真図版6	39	第69図-3(2号カメ棺)	
1号土坑 2号土坑 1号墓		第69図-4(2号カメ棺)	
写真図版7	40	写真図版19	102
2号墓 2号墓 遺物出土状況		内無川4地区 3号カメ棺墓出土状態(西から)	
4号墓上面		第71図-1(3号カメ棺)	
写真図版8	41	写真図版20	103
4号墓 完掘状況		内無川4地区 4号カメ棺墓出土状態(東から)	
岡3号墳円礫集積状況		第73図-1(4号カメ棺)	
出土遺物		写真図版21	104
写真図版9	92	内無川4地区 5号カメ棺墓出土状態(東から)	
内無川4地区 空中写真 調査区 発掘風景		第75図-1(5号カメ棺)	
写真図版10	93	写真図版22	105
内無川4地区 1号竪穴出土状態(北から)		内無川4地区 1号集石出土状態(東から)	
内無川4地区 2号竪穴、11号土坑出土状態(東から)		内無川4地区 2号集石出土状態(東から)	
写真図版11	94	写真図版23	106
内無川4地区 3号竪穴出土状態(東から)		内無川4地区 3号集石出土状態(東から)	
内無川4地区 4号竪穴出土状態(東から)		内無川4地区 4号集石出土状態(南から)	
写真図版12	95	写真図版24	107
内無川4地区 4号竪穴遺物出土状態(東から)		内無川4地区 1号炭窯出土状態(南から)	
内無川4地区 5号竪穴出土状態(東から)		内無川4地区 2号炭窯出土状態(南から)	
内無川4地区 6A号竪穴出土状態(東から)		内無川4地区 3号炭窯出土状態(南から)	
写真図版13	96	内無川4地区 4号炭窯出土状態(東から)	
内無川4地区 6B号竪穴出土状態(東から)			
内無川4地区 7号竪穴出土状態(東から)			
写真図版14	97		
内無川4地区 8号竪穴遺物出土状態(東から)			
内無川4地区 8号竪穴出土状態(東から)			

写真図版25	108	写真図版42	137
内無川4地区	5号炭窯出土状態(西から)	石棺東小口部(西方向から)	
内無川4地区	6号炭窯出土状態(西から)	石棺材加工状態(南方向から)	
内無川4地区	7号炭窯出土状態(東から)	石棺完掘状態(西方向から)	
写真図版26	109	写真図版43	138
内無川4地区	1号土坑遺物出土状態(北から)	岡1号墳完掘時全景(西方向から)	
内無川4地区	1号土坑出土状態(西から)	南地区調査前全景(北西方向から)	
写真図版27	110	1号竪穴全景(南東方向から)	
内無川4地区	1号、2号、3号、4号竪穴出土遺物	写真図版44	139
写真図版28	111	1号・2号住居跡(南東方向から)	
内無川4地区	4号、5号竪穴出土遺物	1号住居跡全景(北東方向から)	
写真図版29	112	1号住居跡完掘時全景(北東方向から)	
内無川4地区	6A号、6B号、7号、8号竪穴出土遺物	写真図版45	140
写真図版30	113	2号住居跡全景(南東方向から)	
内無川4地区	8号竪穴出土遺物	2号住居跡完掘時全景(南東方向から)	
写真図版31	114	南地区完掘時全景(南東方向から)	
内無川4地区	8号、9号、10号竪穴出土遺物	写真図版46	149
写真図版32	115	岡2号墳全景(南西方向から)	
内無川4地区	12号竪穴、1号土坑、4号土坑、1号集石遺構、2J区出土遺物	岡2号墳空中写真	
写真図版33	116	写真図版47	150
内無川4地区	3・F~4・K出土遺物	南北トレンチ土層(部分)	
写真図版34	117	東西トレンチ土層(部分)	
内無川4地区	4・I~4・K出土遺物	東西トレンチ土層(部分)	
写真図版35	118	写真図版48	151
内無川4地区	3・C~4・G出土遺物	南北トレンチ土層(部分)	
写真図版36	119	主体部上面の攪乱された石棺材	
内無川4地区	4・F~3・G出土遺物	検出時の石棺	
写真図版37	120	写真図版49	152
内無川4地区	3・P~3・K出土遺物	検出時の石棺	
写真図版38	133	完掘時の石棺全景	
空中写真	手前が岡2号墳 奥が岡1号墳(南東方向から)	同上	
空中写真	岡1号墳(南上方向から)	写真図版50	153
写真図版39	134	石棺抜き取り痕(南小口部)	
岡1号墳調査前全景(西方向から)		石棺床部土層	
岡1号墳掘形確認状態(西方向から)		墓壙全景	
写真図版40	135	写真図版51	154
岡1号墳第1トレンチ(北方向から)		完掘時の墳丘(北東方向から)	
写真図版41	136	鉄片出土状況 鉄製鋤先出土状況	
石棺全景(1)(西方向から)		写真図版52	155
石棺全景(2)(西方向から)		周溝(墳丘南側)	
石棺全景(3)(南方向から)		墳丘と炭窯(画面右上)	
		墳丘と炭窯(画面右下)	
		写真図版53	156
		炭窯 炭窯(完掘時) 墳丘全景(完掘時)	
		写真図版54	165
		調査区全景 1号溝全景	

写真図版55	166	写真図版60	197
1号溝断面と石積み 2号溝 1号建物		1号炭窯 2号炭窯 3号炭窯 4号炭窯	
写真図版56	193	1号掘立柱建物 1号掘立柱建物遺物	
善福寺2地区(上が北)		6号土坑完掘状況 5号土坑完掘状況	
善福寺2地区(北西から)		写真図版61	198
写真図版57	194	善福寺2地区 出土遺物(1)	
善福寺2地区(南から)		写真図版62	199
善福寺2地区(北から)		善福寺2地区 出土遺物(2)	
写真図版58	195	写真図版63	200
1号住 完掘状況		善福寺2地区 出土遺物(3)	
1号住 土坑		写真図版64	201
2号住 遺物出土状況		善福寺2地区 出土遺物(4)	
2号住 完掘状況		写真図版65	202
3号住 遺物出土状況		善福寺2地区 出土遺物(5)	
3号住 土坑		写真図版66	203
3号住 完掘状況		善福寺2地区 出土遺物(6)	
4号住 遺物出土状況		写真図版67	204
写真図版59	196	善福寺2地区 出土遺物(7)	
4号住 完掘状況		写真図版68	205
5号住 遺物出土状況		善福寺2地区 出土遺物(8)	
5号住 完掘状況		写真図版69	206
6号住 完掘状況		善福寺2地区 出土遺物(9)	
7号住 完掘状況		写真図版70	207
8号住 完掘状況		善福寺2地区 出土遺物(10)	
9号住 完掘状況		図版1 テフラ	232
10号住 完掘状況		図版2 石材現地調査地点露頭	233
		図版3 石材試料および薄片	234
		図版4 炭化材・炭化種実	235
		図版5 鋤先錆片の外観と断面組織	236

第1章 調査の経過と概要

第1節 調査に至る経緯

岡遺跡群は大分市大字丹生、一木に位置する。

当地は、九州山地の祖母・傾山系に源を發し、大分県中央部をほぼ北流する大野川が別府湾に流入する河口近くの右岸台地上にあり、現況は深い山林である。隣接地には、大分キャノン株式会社大分事業所が進出し、操業を開始している。

今回の調査地を含む大分キャノン株式会社大分事業所南側一帯の開発について、県企業立地推進室から県教育委員会文化課に協議があったのは、平成17年5月である。それによれば、大分キャノン大分事業所南側の約30haを、大分キャノンマテリアル株式会社工場用地として造成するというものであった。当該地は、幾筋もの谷が切れ込む起伏にとんだ地形を呈しているが、計画によれば、造成工事により谷部以外の大部分が大きく削平されるものであった。そのため、埋蔵文化財が確認された場合、工法変更等による保存措置が困難であろうことが想定された。また、提示された着工から完成にいたる工事工程をみると、埋蔵文化財の調査にあてることのできる時間が極めて限られる厳しいものであった。以上を考慮し、当該地の分布調査が急務であると判断した。

分布調査は、平成17年6月初旬に県文化課と県埋蔵文化財センターにより実施された。一部が果樹園等であったが、大部分が荒れた山林や竹林であったため踏査は困難を極めた。分布調査の結果、古墳と思われるもの3基を含め、試掘・確認調査が必要と判断される地点を11箇所確認した。これを受け、県企業立地推進室や造成工事を行う県土地開発公社と、試掘・確認調査の実施に向けて協議を行った。試掘・確認調査が必要な箇所はいずれも深い山林等であったため、山林の伐採が行われなければ、その実施は不可能であった。しかし、対象地が広大であったため、全面的な伐採を待つと試掘・確認調査の時期が大きく遅れることとなり、工事工程に支障をきたすことが懸念された。そのため、試掘・確認調査の調査区設定場所及び重機進入路についてのみ伐採し、調査を早急に進めることとした。部分的な伐採に向け、県土地開発公社とともに再度現地を踏査し、伐採場所を特定していった。

山林の伐採後、平成17年6月20日～23日の間に、試掘・確認調査を実施した。その結果、調査を行った11地点のうち8地点で遺跡を確認した。また、分布調査の際に古墳の可能性があったもののうち、2基は確実に円墳であることが確認された。また、残る1基についても、その可能性が高いと判断されたが、その大半が開発予定地外に位置することが判明した。

試掘・確認調査結果は、即日県企業立地推進室及び県土地開発公社に通知され、その取扱いについての協議を開始した。当初の工事計画によれば、遺跡の確認された8地点とも削平工事を行う場所のため、すべて記録保存のための調査が必要となる。しかし、その調査対象面積は約14,000㎡にもなり、造成工事の工程変更もしくは工法変更等がなければ、調査の完全実施は極めて困難な状況であると判断された。協議の結果、丘陵部を削平し谷部を埋めなければ造成工事は不可能であるということから、工法変更による遺跡保存は断念せざるを得なかった。そのため、協議の焦点は、期間に余裕のない工事工程のなかに、いかに埋蔵文化財調査期間を確保するかに絞られた。その調整は難航したが、県調査員の大量投入による短期間の集中調査、調査に係る契約事務を県土地開発公社が直接行うことによる事務の抜本的迅速化等により、全ての本調査を工事の完成に支障のないように実施できることとなった。

本調査は、大分県教育委員会を調査主体とし、その開始は試掘・確認調査の終了から10日余の平成17年7月5日、最終的な調査の終了予定を平成17年9月30日とした。調査は、梅雨から猛暑の時期にかけ、連日百数十名の作業員を投入し、県文化課及び県埋蔵文化財センター職員5名が張り付き、最大5現場を併行して行う大規模な調査となった。

第2節 調査団の構成

岡遺跡群の調査体制（平成17年度）は次のとおりである。

事業主体 大分県土地開発公社

調査主体 大分県教育委員会

調査体制

渋谷忠章（大分県教育庁埋蔵文化財センター所長）
栗田勝弘（大分県教育庁埋蔵文化財センター調査第一課長）
小林昭彦（大分県教育庁埋蔵文化財センター調査第一課主幹）
小柳和宏（大分県教育庁埋蔵文化財センター調査第一課副主幹）
高橋 徹（大分県教育庁文化課課長補佐）
後藤一重（大分県教育庁文化課主幹）

調査場所 大分市大字丹生・一木

遺 跡 名 岡遺跡群

内無川1地区（後藤担当）
内無川2地区（後藤担当）
内無川3地区（後藤担当）
内無川4地区（栗田担当）
上中尾地区（小林担当）
林頭地区（高橋担当）
善福寺1地区（後藤担当）
善福寺2地区（小柳担当）

調査期間 平成17年7月5日～平成17年9月30日

第3節 発掘調査の経過

岡遺跡群の発掘調査は平成17年7月5日～9月30日の予定で開始された。岡遺跡群は内無川1地区、内無川2地区、内無川3地区、内無川4地区、上中尾地区、林頭地区、善福寺1地区、善福寺2地区の8調査区の集合体である。発掘調査は、現地の造成計画と試掘調査結果を基にして、調査面積、遺跡の規模や内容を検討し、発掘調査期間と調査開始～終了時期を計画した。そして、調査の終了した調査区から順次造成工事に渡していくという方法がとられた。

調査期間は、現地造成工事の工程を考慮し、内無川1地区、内無川2地区、内無川3地区を7月15日まで、善福寺1地区を7月31日まで、上中尾地区、林頭地区を8月20日まで、善福寺2地区を8月31日まで、内無川4地区を9月30日までと決定した。発掘調査は、文化課と埋蔵文化財センターの調査員を同時に5人（パーティ）投入して、発掘調査を開始するとともに、全体的には早く引き渡す現場を優先しつつ、調査支援業者や作業員を集中的に投入し、結果的には、個々の調査区は計画どおりか、約2週間の期間の短縮をもって終了することができた。

第4節 発掘調査の概要

岡遺跡群は大分市大字丹生と大字一木に位置している。岡遺跡群は大字丹生の上中尾地区、林頭地区の2箇所、大字一木の内無川1地区、内無川2地区、内無川3地区、内無川4地区、善福寺1地区、善福寺2地区の6箇所、の計8調査区の集合体である。調査面積は、追加分を含めて全体で

14,600㎡である。

内無川1地区は調査面積900㎡である。周辺部の丘陵よりやや低い、狭い平坦地に竪穴住居跡5基と土坑2基が検出されている。時期は弥生後期に比定される。立地条件から考えて、集落跡とは言い難く、最少単位の集団の住居跡と推察できそうである。

内無川2地区は調査面積400㎡である。平坦丘陵の入り口近くで発見された人為的な方形丘である。試掘調査時に竹藪を伐採して発見されたもので、発見当時は中世の墳墓の可能性を考えていた。方形丘は一辺6m前後の方形で、高さは0.7mである。この方形丘には大きく3回の人為的な掘り込みがあった。この土坑内には焼土や炭化物が充填しており、放射性炭素の年代測定によると、明治時代前後の数値が出され、屋外火葬場の一形態と把握できた。

内無川3地区は調査面積800㎡である。岡3号墳に隣接する痩せた尾根状部に、弥生時代の土坑2基と墓4基が確認され、古代の炭焼窯1基も検出されている。墓は二段掘りの土坑で木棺墓の可能性が高い。副葬品として鉦が出土している。この調査区からは竪穴住居跡が発見されておらず、ある時期の墓域を形成していたものと推量できる。

内無川4地区は調査面積2,500㎡である。岡遺跡群の中でも一番高い細長い丘陵に位置している。丘陵の基部を中心に、弥生時代後期の竪穴住居跡が12基と小児用カメ棺墓が5基出土している。その他の遺構としては、旧石器時代～縄文早期の集石遺構4基と古代の炭焼窯7基が検出されている。

上中尾地区は調査面積2,000㎡である。岡1号墳と竪穴遺構3基、土坑が検出されている。岡1号墳は地山削り出しで基底部を造り、その上に盛土した円墳で墳頂部まで約1mと低い。直径約15mで葺き石のない低位の墳丘形態を呈する。周溝は幅約3m、深さ0.3m前後であり全周はしない。主体部は砂質凝灰岩製の石棺である。副葬品はなかった。

林頭地区は調査面積2,500㎡である。岡2号墳が遺存している。岡2号墳は地山削り出しで基底部を造り、その上に盛土した円墳で墳頂部まで約1.4mと低い。直径約18mで葺き石のない低位の墳丘形態を呈する。周溝は幅約2.5m、深さ0.2m前後である。主体部は緑泥片岩製の石棺である。副葬品としては鉄器の鋤先等がある。

善福寺1地区は調査面積2,500㎡である。岡遺跡群の中でも林頭地区の丘陵裾部の一番低い所に位置している。古代の土坑2基と近世～近代の4本の溝、2基の土坑、掘立柱建物跡等が出土している。

善福寺2地区は調査面積3,000㎡である。岡遺跡群の中でも一番低い丘陵に位置している。遺構としては、弥生時代の円形竪穴住居跡が10基、土坑6基が出土している。また、古代の炭焼窯4基、中世の掘立柱建物跡1棟が検出されている。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

岡遺跡群は、大野川河口右岸の丹生台地の北東縁辺部に位置している。現況は小さな丘陵部と谷部が交互に展開する地形である。岡遺跡群は小さな丘陵部の緩やかな平坦面に遺存しており、そこは、人の進入を拒むような入り組んだ山と谷が錯綜し、一帯は雑木林で覆われていた。丘陵上の標高は、内無川4地区の高い丘陵上で約80mを測り、善福寺地区の低い丘陵上では65mを測る。大野川に近い西側から徐々に東側へかけて低くなる地形である。

丹生台地の基盤は地質学的には第四期更新世「大分層群滝尾層」に乗った海成層の地層が地表近くにあり、「九重層群大在層の丹生泥層」やその上位に重なる「九重層群城原層の岡泥層」等の地表下約1～3mの切り通し面では、横褐色土層の中に、ハイガイ等の海産二枚貝の軟らかい化石を採取することができる。

岡遺跡群はこの様な層序の上に展開するが、比較的小規模で急な山谷の連続的な地形のため、堆積した土砂の流出が想定できる。このような地勢に起因するためか、丘陵上には後世の火山灰層や腐植土層の重なりが貧弱であり、大野川の上中流域で確認できる阿蘇溶結凝灰岩を基盤としたローム層の整然とした堆積層序は確認できない。

基本的な地層としては、1層の表土層が暗黒褐色の腐植土層。2層が褐色土層で表土層とアカホヤ層の混じった土層で弥生・古墳時代～古代の遺物包含層。3層は黄褐色のアカホヤ土層。4層は茶褐色土層で始良 Tn 火山灰と凝灰岩の風化した細かい砂質土層。5層は灰褐色粒質土層で溶結凝灰岩の風化した細かい砂質土層の地山である。テフラ分析によると、阿蘇Ⅳや一木凝灰岩や中安火山灰と呼ばれるものではないという。したがって、旧石器時代、弥生・古墳時代、古代の遺物は2層～4層の間の、僅か10～50cm前後の堆積土中に凝縮されて包含されているのが現状である。

第2節 歴史的環境

岡遺跡群は大分市大字丹生・一木地区に所在している。『豊後国志』によると丹生の地名は「風土記曰。昔時之人。取此山沙該朱沙。因曰丹生郷。按統日本紀曰。文武二年。九月。乙酉。豊後国献眞朱。…」とあり、古代にまで遡る。今も現地の赤土の中に残る朱色の鮮やかさは「丹生」の地名の起源を彷彿とさせる。

大野川河口付近の右岸丘陵の丹生台地は、かつて、わが国の前期旧石器存否論争の舞台となった丹生遺跡群の展開する所として、考古学史上あまりにも有名である。岡遺跡群は丹生台地の北端に位置しており、丹生遺跡から出土した礫器と同様な石器が出土している。この丹生台地は古くから表面採集で後期旧石器時代のホルンフェルスを原材とした剥片尖頭器や三稜尖頭器が発見されており、小規模な旧石器時代の遺跡が点在していることが判明している。

丹生台地では縄文時代のまとまった遺跡はないが、丹生遺跡や岡遺跡群の内無川4地区では、蒸し焼き調理用と推察される縄文早期と推量される集石炉が出土している。また、台地東側の丹生川の河岸段丘上にある丹生川坂ノ市条里跡では縄文晩期のカメ棺墓が発掘され、やや下流の丹生川遺跡では、縄文後期の磨消縄文土器や縄文晩期の刻目突帯文土器が出土している。

弥生時代の稀有な遺跡としては平形銅剣を出土した清水迫遺跡がある。また、丹生川遺跡や一木遺跡は古くから弥生時代の土器散布地として著名である。特に、昭和37年の発掘調査報告書によると、丹生川遺跡では弥生時代の水田畦の矢板列や三叉の木鋏や茄子型木製品、機織機具等が植物遺体と共に検出されている。

岡遺跡群は、南に丹生遺跡、清水迫遺跡、東に丹生川遺跡を含む丹生川坂ノ市条里跡、北に東上ノ原遺跡、一木遺跡に挟まれた広大な丘陵上に位置している。岡遺跡群は弥生時代後期を主体とした集落跡であり、内無川1地区では竪穴住居跡4基、内無川4地区では円形竪穴住居跡12基と5基の小児用カメ棺墓、善福寺2地区では円形竪穴住居跡10基の集落跡が検出されている。また、内無

川3地区では弥生時代の墓地が4基発見されている。一方、岡遺跡群の側に位置する上辻遺跡でも平成17年に発掘調査され、円形と方形の竪穴住居跡15基の集落跡が検出されている。

ところで、昭和37年には、岡遺跡群の南方に位置する丹生遺跡でも、「大和時代の土器」として、当時の旧石器と共に弥生時代の土器が発掘調査報告書に記載されている。

弥生後期の岡遺跡群の例は、周辺地域の弥生時代の生活や遺構の機能をはじめ、集落の移動やその変遷を考えるうえで貴重な追加資料となる。

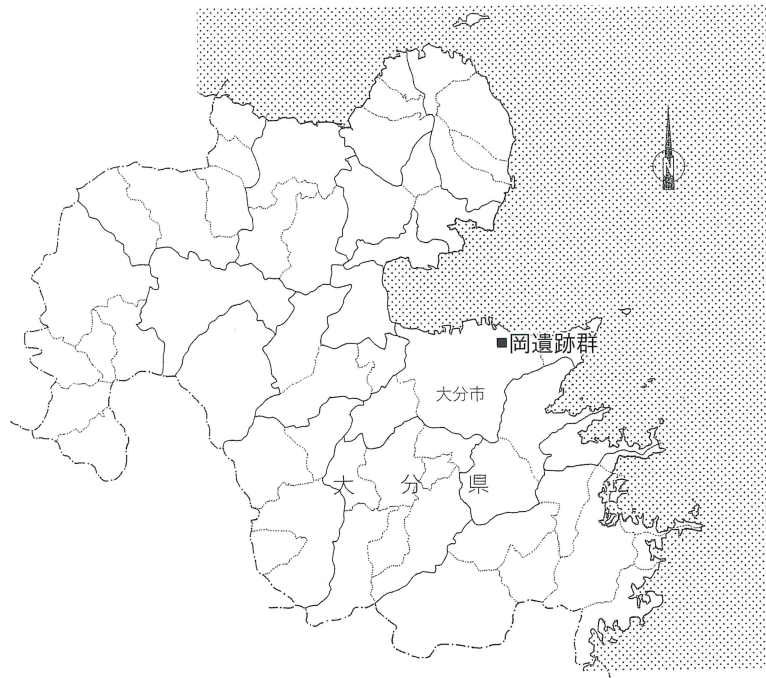
古墳時代の遺跡としては、昭和42年に発掘調査報告書が出された野間古墳群がある。野間古墳群は丹生遺跡の南方に位置しており、3基の前方後円墳と7基の円墳から成っている。古墳の時期は、出土遺物から4世紀～5世紀前半を下らない古手の様相を呈していた。今回発掘調査された、岡1号墳の主体部は砂質凝灰岩製の箱式石棺で、岡2号墳の主体部は緑泥片岩製の箱式石棺であり、野間古墳群と同様な時期の所産であろうと推察された。また、北東部の海岸部近くの城原台地には国指定史跡の県下最大級の亀塚前方後円墳が位置している。

一方、古墳時代後期には岡遺跡群の東方の台地下縁部に岡下横穴墓群が位置し、丹生川の右岸台地には久土横穴墓群や城下横穴墓群、北東方向には城原横穴墓群、尾崎横穴墓群、北方には屋宗横穴墓群がある。この様に、見晴らしの良い丘陵や台地の縁辺部には古式な高塚古墳が点在し、その下縁部には横穴墓群が位置しており、それ等の周辺の平野部に、古墳時代の集落跡やその可耕地の展開を想像するに十分である。

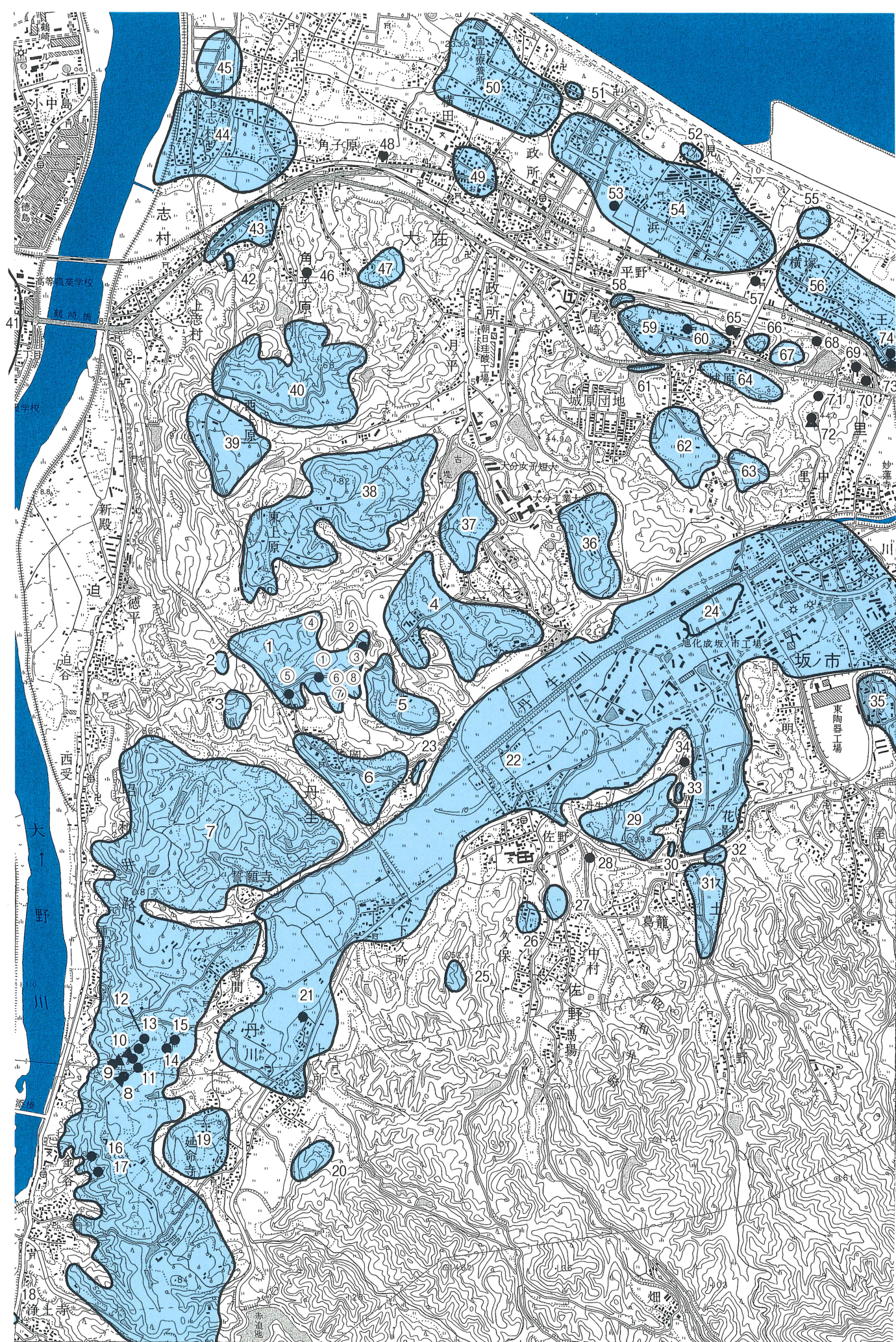
岡遺跡群での古代の遺構・遺物としては、炭焼窯や少数の土師器がある。炭焼窯はこの時期の集落の里山に構築された遺構である。この時期の遺跡としては、東方の丹生川坂ノ市条里跡や丹生川右岸の西王寺遺跡や毛見所遺跡、久土前田遺跡がある。また、北東方には、海部郡衙に推定できそうな中安遺跡がある。企画性を保って整然と配置された掘立柱建物群は壮観である。

中世の遺跡は低調であるが、丹生川坂ノ市条里跡や上久所遺跡、大友親著墓の石塔がある。

以上のように、岡遺跡群の周辺部に展開する主要な遺跡を時代ごとに一瞥して見た。



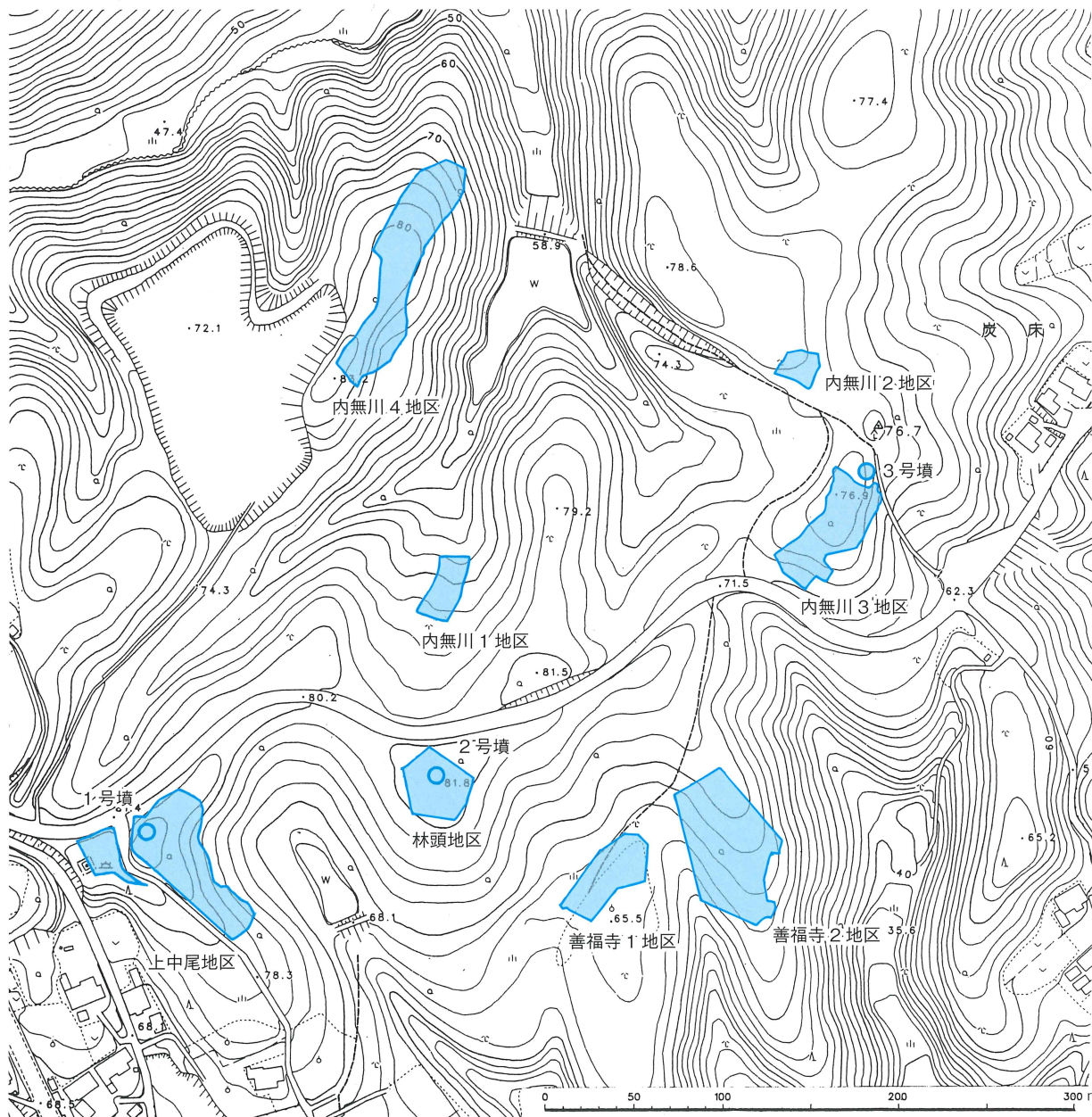
第1図 遺跡位置図



第2図 岡遺跡群と周辺の主要遺跡位置図 (1/25,000)

第1表 岡遺跡群と周辺の主要遺跡

1	岡遺跡群		21	大友親著墓	中世	49	大在政所遺跡	弥生
①	内無川1地区	弥生	22	丹生川坂ノ市糸里跡	古代・中世	50	政所遺跡	弥生
②	内無川2地区	近世	23	岡下横穴墓群	古墳	51	大在第2浜遺跡	弥生
③	内無川3地区(岡3号墳)	弥生・古墳	24	丹生川遺跡	縄文・弥生	52	大在沖遺跡	弥生
④	内無川4地区	弥生・古墳・古代	25	久保遺跡	縄文	53	浜遺跡銅剣出土地	弥生
⑤	上中尾地区(岡1号墳)	弥生・古墳	26	西大寺遺跡	古墳	54	浜遺跡	弥生・古墳
⑥	林頭地区(岡2号墳)	弥生・古墳	27	毛見所遺跡	古墳・古代・中世	55	横塚遺跡1	弥生
⑦	善福寺1地区	近世	28	久土キリシタン墓	近世	56	横塚遺跡2	弥生
⑧	善福寺2地区	弥生・中世	29	久土遺跡	弥生・古墳・古代・中世	57	横塚古墳	古墳
2	上辻遺跡	弥生	30	久土横穴墓群	古墳	58	尾崎横穴墓群	古墳
3	清水迫平型銅剣出土地	弥生	31	久土前田遺跡	古代	59	城原C遺跡	弥生
4	一木遺跡	旧石器・弥生	32	新光遺跡	弥生・古代	60	城原天神社裏遺跡	古墳
5	善福寺遺跡	古墳	33	城下横穴墓群	古墳	61	城原横穴墓群	古墳
6	下遺跡	古墳	34	原経塚	中世・近世	62	中安遺跡	弥生・古墳・古代
7	丹生遺跡群	旧石器・縄文・弥生	35	御崎遺跡	古墳	63	城原D遺跡	弥生
8	野間古墳1号墳	古墳	36	貝殻山遺跡	弥生	64	城原原口遺跡	弥生
9	野間古墳2号墳	古墳	37	経蔵原遺跡	弥生	65	大蔵古墳	古墳
10	野間古墳3号墳	古墳	38	東上ノ原遺跡	弥生	66	城原A遺跡	弥生
11	野間古墳4号墳	古墳	39	上ノ原北遺跡	近世	67	城原B遺跡	弥生
12	野間古墳5号墳	古墳	40	西上ノ原北遺跡	近世	68	湯ノ尻古墳	古墳
13	野間古墳6号墳	古墳	41	鶴崎町遺跡	中世・近世	69	辻古墳1号墳	古墳
14	野間古墳7号墳	古墳	42	屋宗横穴墓群	古墳	70	辻古墳2号墳	古墳
15	野間古墳8号墳	古墳	43	王越遺跡	弥生	71	小亀塚古墳	古墳
16	野間古墳9号墳	古墳	44	下志村遺跡	弥生	72	亀塚古墳	古墳
17	野間古墳10号墳	古墳	45	天満宮裏遺跡	古墳	73	王ノ瀬古墳	古墳
18	浄土寺遺跡	近世(礎石経)	46	王越石棺	古墳	74	王ノ瀬石棺	古墳
19	延命寺遺跡	縄文・弥生・古墳	47	角子原遺跡	弥生			
20	上久所遺跡	弥生	48	大在古墳	古墳			



第3図 岡遺跡群と周辺の地形

第3章 調査の成果

第1節 内無川1地区

1 調査の概要

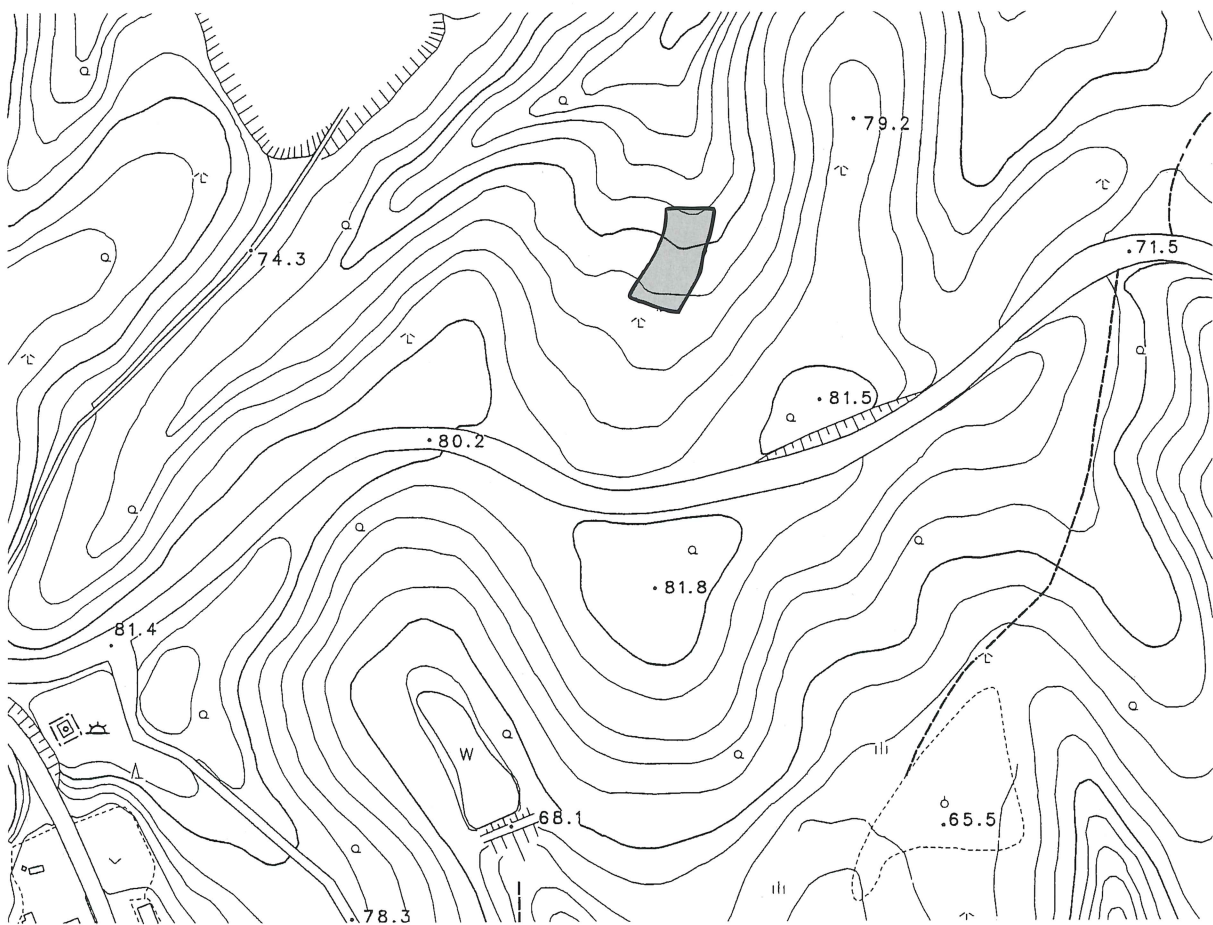
本遺跡は、大分市大字一木字内無川に位置する。

上中尾地区から内無川3地区に向かい尾根状の丘陵が東西方向にのびる。遺跡は、この尾根部の北側直下の平坦地に形成される。尾根の北側には、いくつかの尾根状の丘陵が派生するが、当該地は谷部を登りつめた場所にあたる(第4図)。

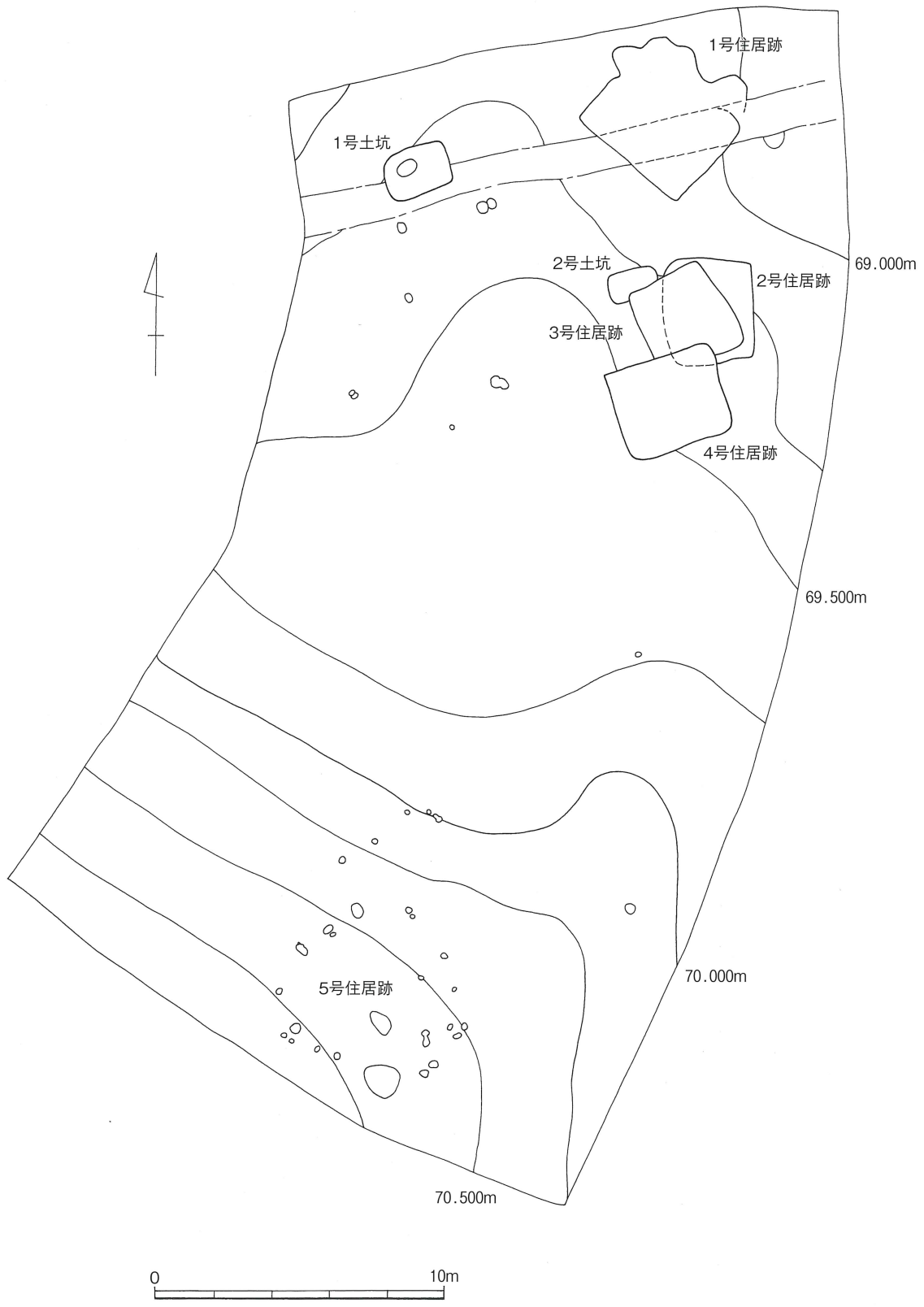
遺跡の東側には、比較的広い平坦地を有する尾根状の丘陵がのびるが、試掘調査を実施した結果、遺構・遺物は確認されなかった。また、北側前方には、弥生時代の集落等が確認された内無川4地区の所在する丘陵がみえる。

調査前には雑木が茂っていたが、伐採してみると、かつては畑地として利用されていた状況が観察された。谷を望む平坦地であるが、狭小で、その広さは調査面積の3倍程である。試掘調査の結果、住居跡が1基確認された。しかし、調査区の西側は削平が著しく、遺構・遺物は検出されなかった。

調査の結果、弥生時代後期と思われる竪穴住居跡4基、土壇2基のほか、竪穴住居跡の残影と考えられる柱穴群1ヶ所が確認された(第5図)。



第4図 内無川1地区調査区位置図と周辺地形



第5図 内無川1地区遺構配置図

2 弥生時代の遺構・遺物

1 住居跡

(1) 1号住居跡 (第6図)

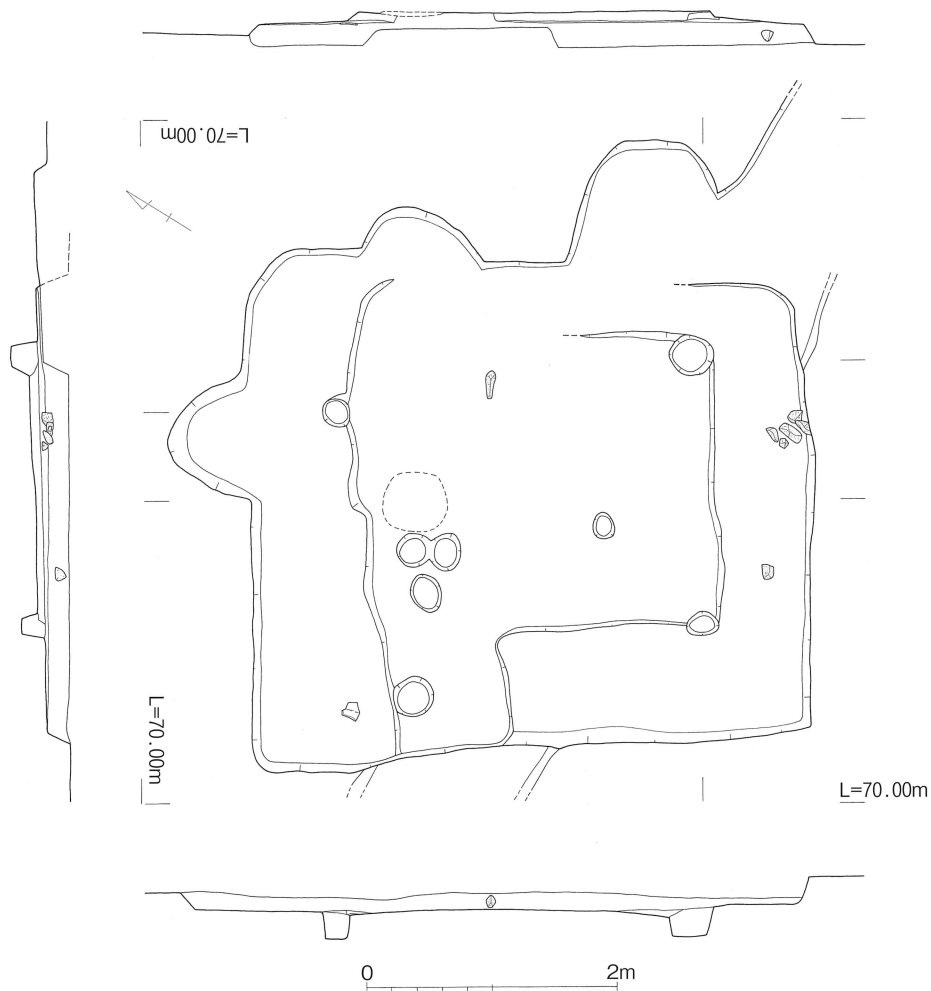
試掘調査の際に確認された住居跡で、平面プラン方形を呈し、その規模は4.5×4.1mを測る。住居跡の東側及び西側には、畑地開墾時のものと思われる攪乱がみられ、一部は床面にまで及んでいる。

支柱穴は4本と思われるが、そのうち西の位置にある柱穴が大きく振っており、やや違和感を覚える。また、四周の壁に沿いベッド状遺構がみられる。遺構は地山削り出しで、床面との高低差は10cm弱である。ベッドの幅は0.7m～0.9mであり、西側の一部が切れるのみで、基本的には全周するものと思われる。しかし、東側は一部において床面まで攪乱がみられ、その部分のベッド状遺構については残存状況がよくない。炉跡は中央やや北よりの位置で、焼土を検出した。

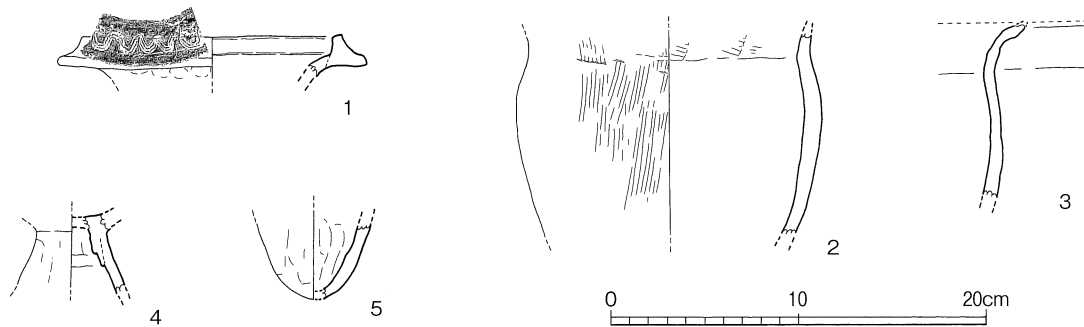
また、中央やや東よりの床面近くで検出した礫には、一部に赤色顔料の付着がみられた。その他の遺物については、全体としてあまり多くなく、特に床面近くからの出土は極めて量が少ない状況である。

出土遺物 (第7、8図) のうち、1は二重口縁壺の口縁部である。口縁立ち上がり部が大きく外方に張り出し、口縁部は内傾しながら立ち上がる。しかし、その立ち上がりは低く、外面には櫛描波状文が1条施される。

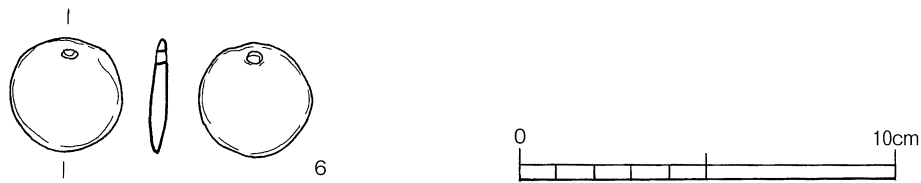
2、3は甕である。2は口縁部を欠くものであるが、頸部があまりしまらず緩やかに口縁部へ向



第6図 内無川1地区1号住居跡 (1/60)



第7図 内無川1地区1号住居跡出土遺物(1) (1/4)



第8図 内無川1地区1号住居跡出土遺物(2) (1/2)

う器形であることが分かる。外面には粗い縦方向のハケメが施され、内面は口縁部が粗い横方向のハケメ、胴部が縦方向のナデである。3も2と同様に、頸部があまりしまらず、外反しながら緩やかに口縁部へいたる。調整は、内外面とも磨滅が著しく不明である。

4は高坏の脚部付け根部分である。坏部は中央の円盤充填部分が欠落している。調整は、外面がナデ、内面が指ナデ等である。

5は小型品の底部で、内外面ともナデ調整である。

6は、径3cmを測る円形の土製品である。中央部が最も厚く0.45mm。穿孔が1ヶ所みられ、垂飾品と思われる。

(2) 2号住居跡 (第9図)

2号住居跡は1号住居跡の南側に位置し、3、4号住居跡と重複する。

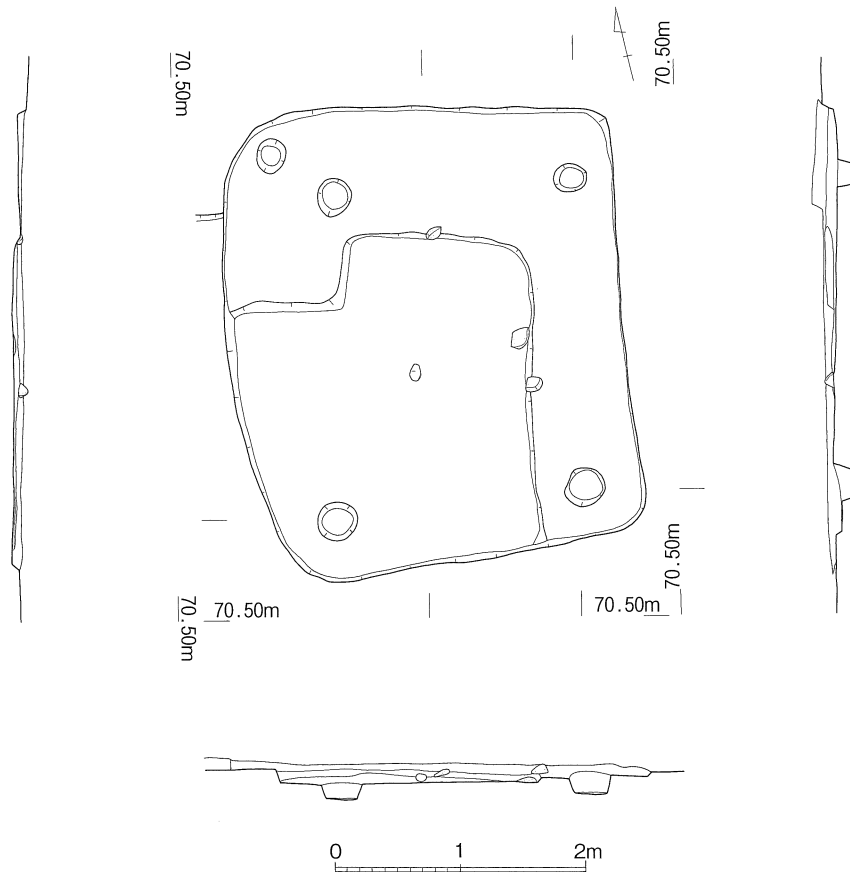
本住居跡の位置に大きな切り株があったこともあり、遺構検出は困難をきわめた。切り株の周囲の土を少しずつ下げながら、遺構の確認を行った。その結果、住居跡が重複している可能性が高いことが分かり、さらに慎重に掘り下げを行い、平面プランの確認につとめた。その結果、本住居跡の埋没後に3、4号住居跡が作られていることが確認された。3、4号住居跡の床面は、本住居跡の床面に達することなく形成されていた。

住居跡は方形を呈し、その規模は3.2m～3.5m×2.8m～3.0mである。東側、北側及び西側の一部にベッド状遺構がみられる。ベッド状遺構は地山削り出しで、幅0.8m～1m、床面との高低差10cm弱である。

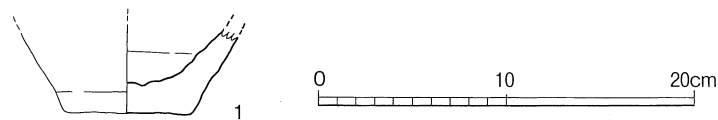
支柱穴と思われるものが4本みられるが、いずれの柱穴も比較的浅いものである。炉跡については検出されなかった。

住居内からの遺物は極めて少量で、わずかに土器片が出土したのみである。

出土遺物 (第10図) のうち、1は平底の底部である。



第9図 内無川1地区2号住居跡 (1/60)



第10図 内無川1地区2号住居跡出土遺物 (1/4)

(3) 3号住居跡 (第11図)

3号住居跡は、2号住居跡と重複した位置にあり、4号住居跡に切られる。

平面形態は方形を呈し、その規模は2.7m×3.2m×3.3mである。主柱穴は4本と思われるが、南東の柱穴想定部分に木根があり確認できなかった。

住居跡中央部からやや南に寄った位置の床面には、0.2m×0.2mの台石が置かれていた。炉跡については、台石の東側で薄い焼土層を検出したが、明確にできなかった。

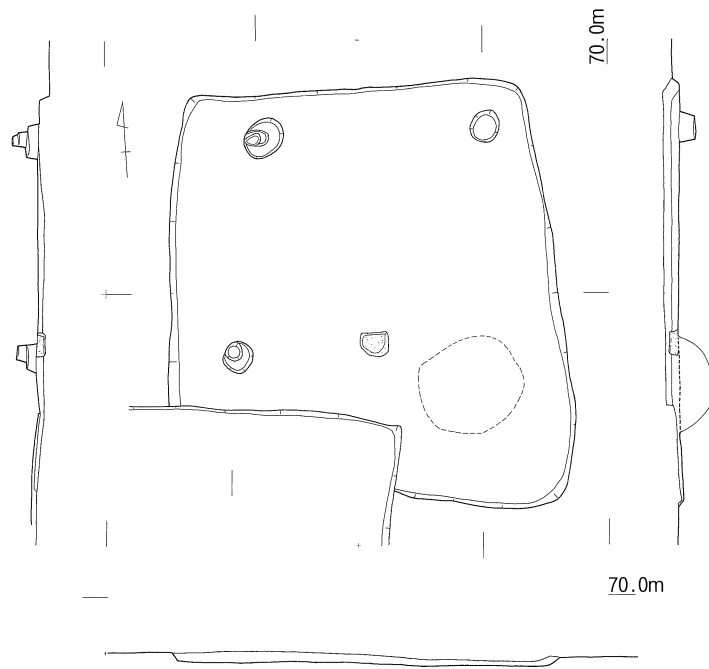
壁の立ち上がりは5cm～10cmと残りが悪く、遺物も埋土中からはまったく出土していない。そのため詳細な時期は不明である。

(4) 4号住居跡 (第12図)

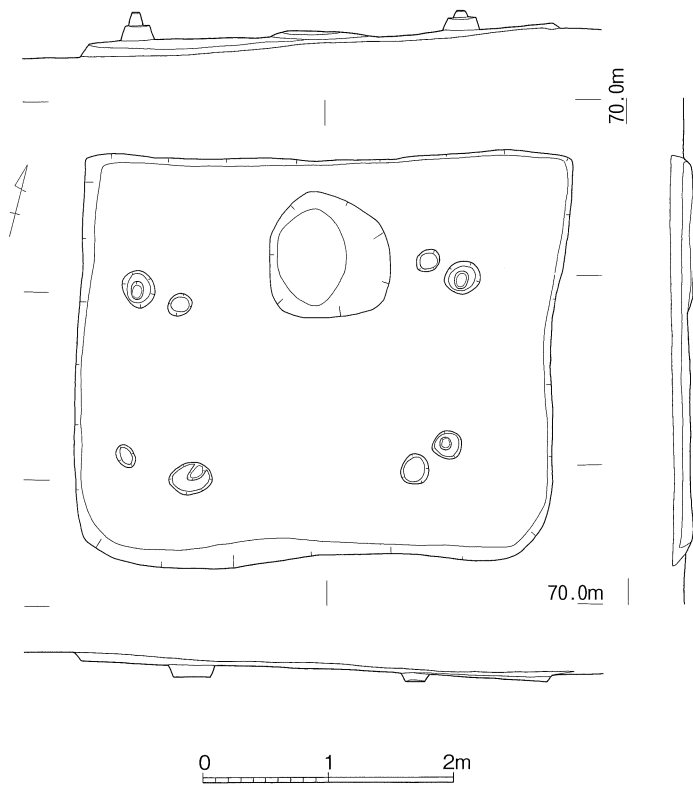
4号住居跡は、3号住居跡の南西部分を切る。

住居跡の平面形態は方形で、3.9m×3.2mの規模をもつ。2号、3号住居跡と同様に小規模なものである。

主柱穴は4本であるが、各々の位置に2本ずつ検出されたことから、主柱穴の建替えが行われた



第11図 内無川1地区3号住居跡 (1/60)



第12図 内無川1地区4号住居跡 (1/60)

ことが分る。北側の柱穴間には、径約1mの円形基調の浅い土坑がみられる。炉跡については確認されなかった。

時期の詳細は、3号住居跡同様に遺物の出土がなかったため不明である。

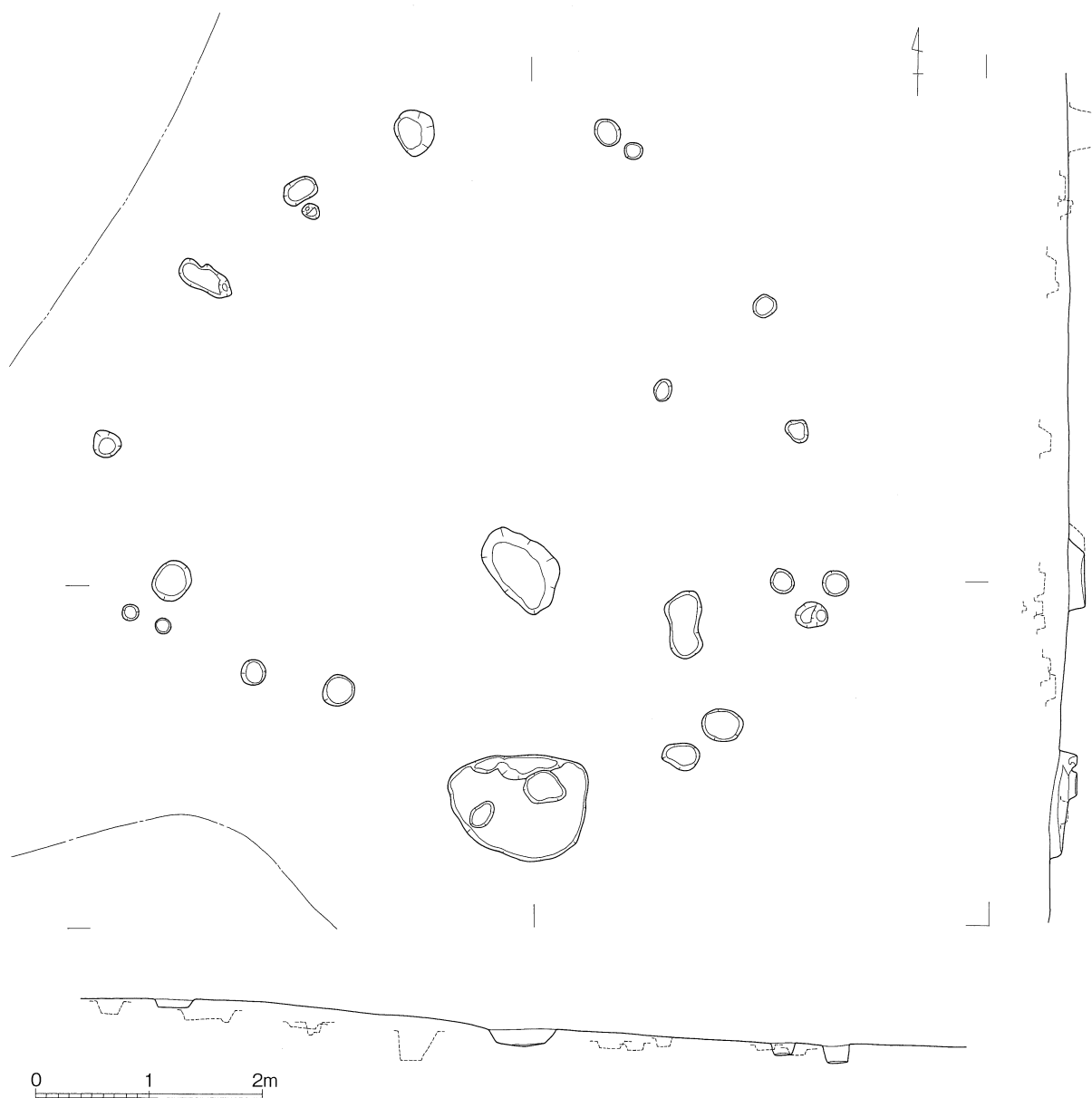
(5) 5号住居跡 (第13図)

調査区の南端の位置で確認した。

10本余の柱穴が円形に配されるもので、その径は約6mである。これらが円形住居跡の残影であるとすれば、住居跡の規模は径8mほどであったと推定される。

柱穴に囲まれた部分のやや南寄りには、0.8m×0.5mの土坑がみられるが、住居跡を構成する遺構であった可能性をもつ。

時期的には、遺物がないため明らかでない。



第13図 内無川1地区5号住居跡 (1/60)

2 土 坑

(1) 1号土坑 (第14図)

1号住居跡の西側5mに位置する。

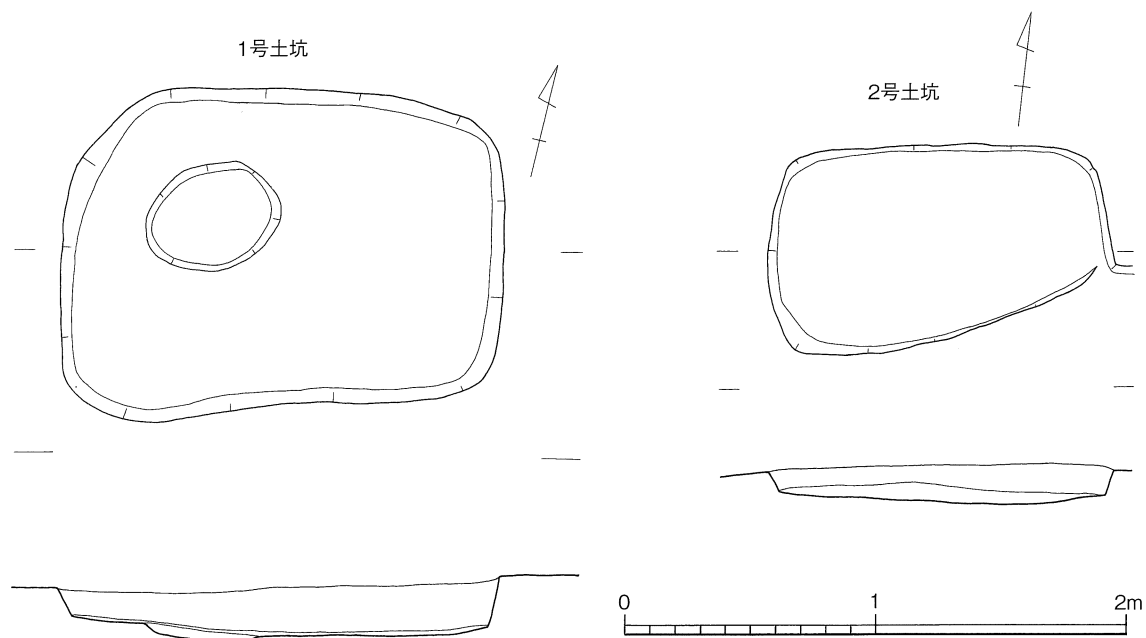
東西方向に長軸を有するもので長方形を呈する。規模は、長辺1.5m～1.8m、短辺2.4m、深さ0.2m～0.3mである。床面はほぼ平坦で、中央やや西寄りに、浅い円形の掘り込みがみられる。土坑内からの出土遺物はないが、埋土の状況から弥生時代の所産と思われる。

(2) 2号土坑 (第14図)

3号住居跡により切られる。

長方形を呈するもので、東西方向に長軸をもつ。規模は、長辺1.8m、短辺0.7m～1.05m、深さ0.15mである。床面は平坦である。

時期は、遺物の出土がないので詳細は不明であるが、埋土の状況から弥生時代の所産と思われる。



第14図 内無川1地区1号土坑、2号土坑 (1/30)

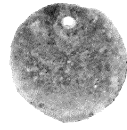
3 小 結

本地点からは、5基の竪穴住居跡が確認され、小規模な集落が営まれたことが明らかになった。しかし、地形的にみると平坦面が極めて小規模で、弥生時代集落が確認された同じ岡遺跡群内の内無川4地区や善福寺2地区とは立地面で大きく異なる。地形的にみても、本来的に大規模集落の展開する余地はなく、当時の最小単位の集団により形成された集落であったと推定される。

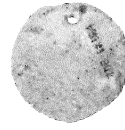
写真図版 1



(第7図1)



(第8図6裏)



(第8図6表)



(第7図4)

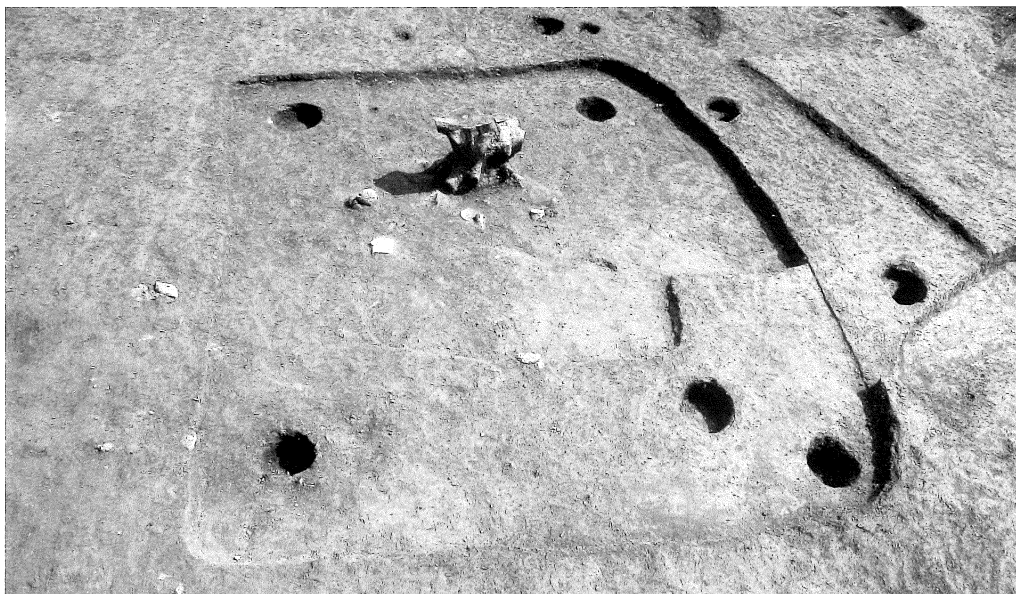


(第7図5)

1号住居跡
出土遺物



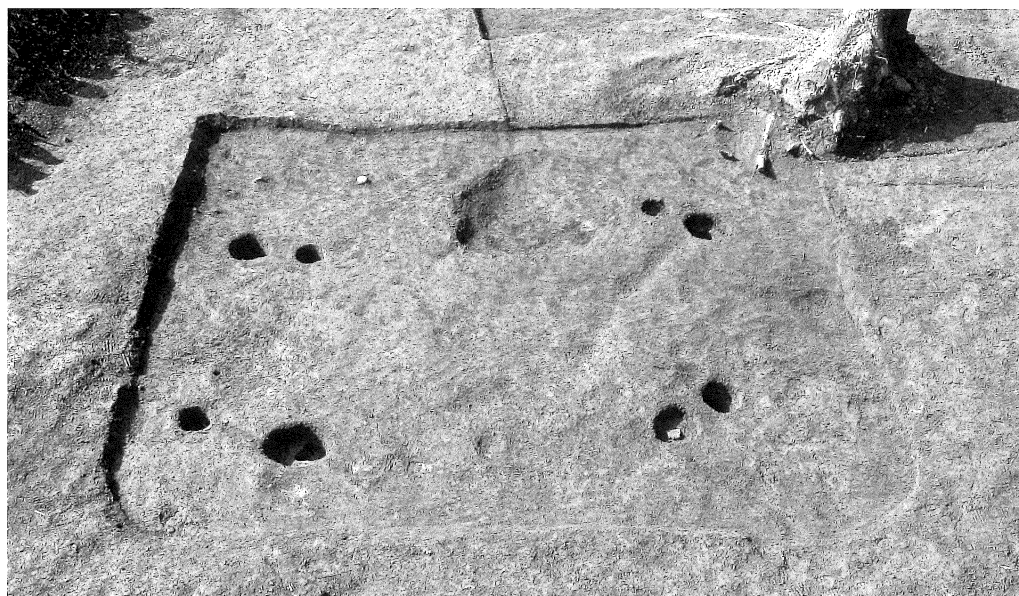
1号住居跡



2号住居跡



3号住居跡



4号住居跡



5号住居跡

第2節 内無川2地区

1 調査の概要

遺跡は大分市大字一木字内無川に所在する。

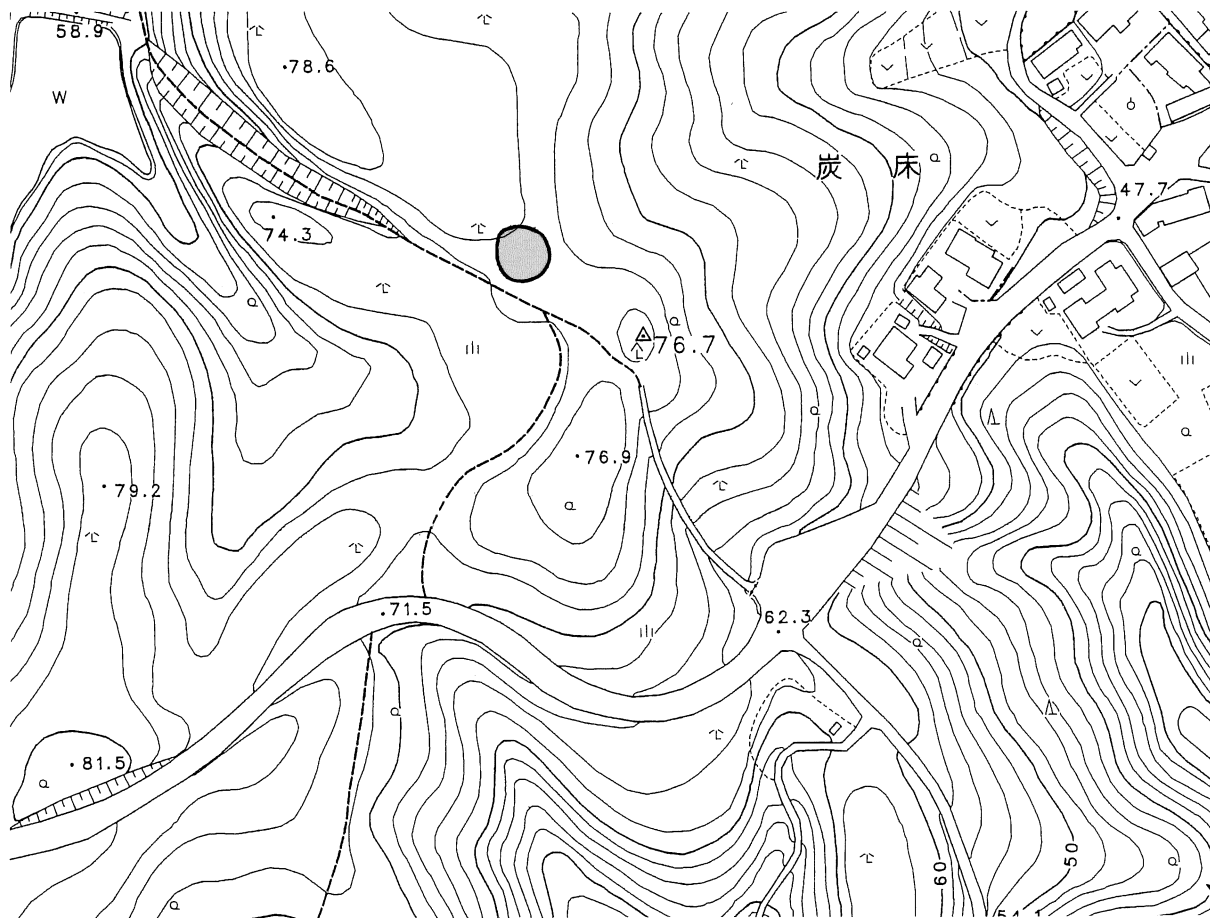
丹生台地からのびる尾根状を呈する地形は、上中尾地区から内無川3地区に向かい東西方向に続く。尾根は、内無川3地区付近から北東方向に向きを変え、さらにのびる。本遺跡は、尾根が方向を変えた付近に位置し、内無川3地区の北側に位置する。

遺跡の南側には、切り通しになった古道と神社がある。古道は一木の集落方面に続くものと思われるが、現況では樹木や竹が茂り、道の面影はない。遺跡の部分も現況では竹林となっており、立ち入るのも困難な状況であった。伐採を行った結果、方形の塚が確認された。

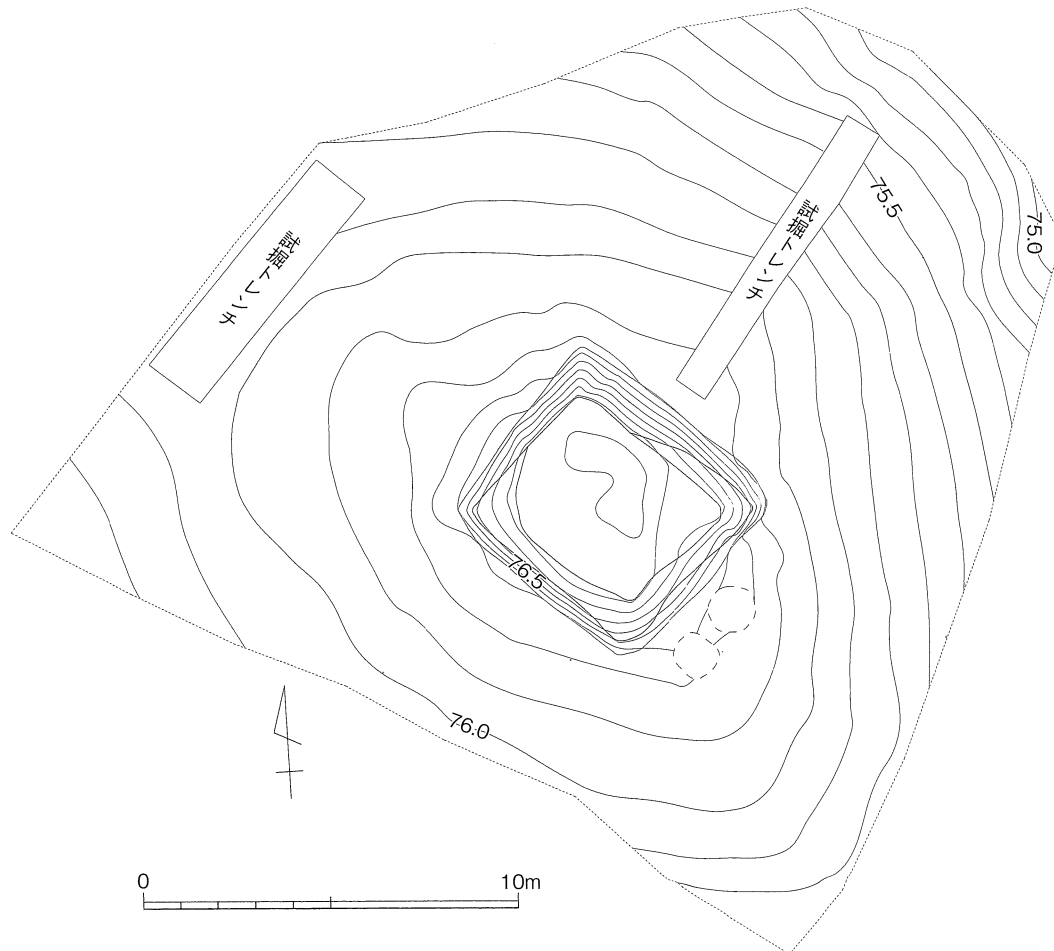
試掘調査は、方形の塚周辺及び本遺跡から北に続く尾根状の丘陵で実施した。塚の周辺では、特に目立った遺構は確認されなかった。しかし、方形の塚は中世墓等の可能性も高いと判断し、本調査の対象とした。

遺跡の北に続く尾根は比較的広い平坦面をもち、昭和30年代後半まで畑地として利用されていた。試掘調査の結果、多くの部分で重機による大規模な削平が確認された。これらは、畑地造成時のものと思われ、わずかな土器片を除き目立った遺構・遺物は検出されなかった。

内無川2地区の調査は、塚の測量を行った後、塚を掘り下げながら遺構検出作業を実施した。その結果、塚が一度かさ上げされているのが確認され、各々の面の中央部において土坑を検出した。



第15図 内無川2地区調査区位置図と周辺地形



第16図 内無川2地区調査前の状況 (1/200)

2 塚の調査

(1) 塚の規模について

調査前は、竹や樹木が密生しており、塚を確認することすらできなかった。樹木の伐採を行った結果、塚の存在が明らかになった。塚の残存状況は良好で、方形の形態が明確に観察でき、上端ラインも明瞭であった(第16図)。

平面形はやや長方形気味で、塚の対角線が概ね南北、東西の方向になる。第1面及び第2面の遺構面から検出された遺構が、いずれも塚の対角線に主軸をもつことを考えると、塚の対角線が東西、南北になるよう意識的に築造した可能性もある。

塚の規模は、基底部で長辺6.2m~6.5m、短辺5.5m~5.8m、上面で長辺4.8m~5.0m、短辺3.6m~3.8m、高さは0.7mである。

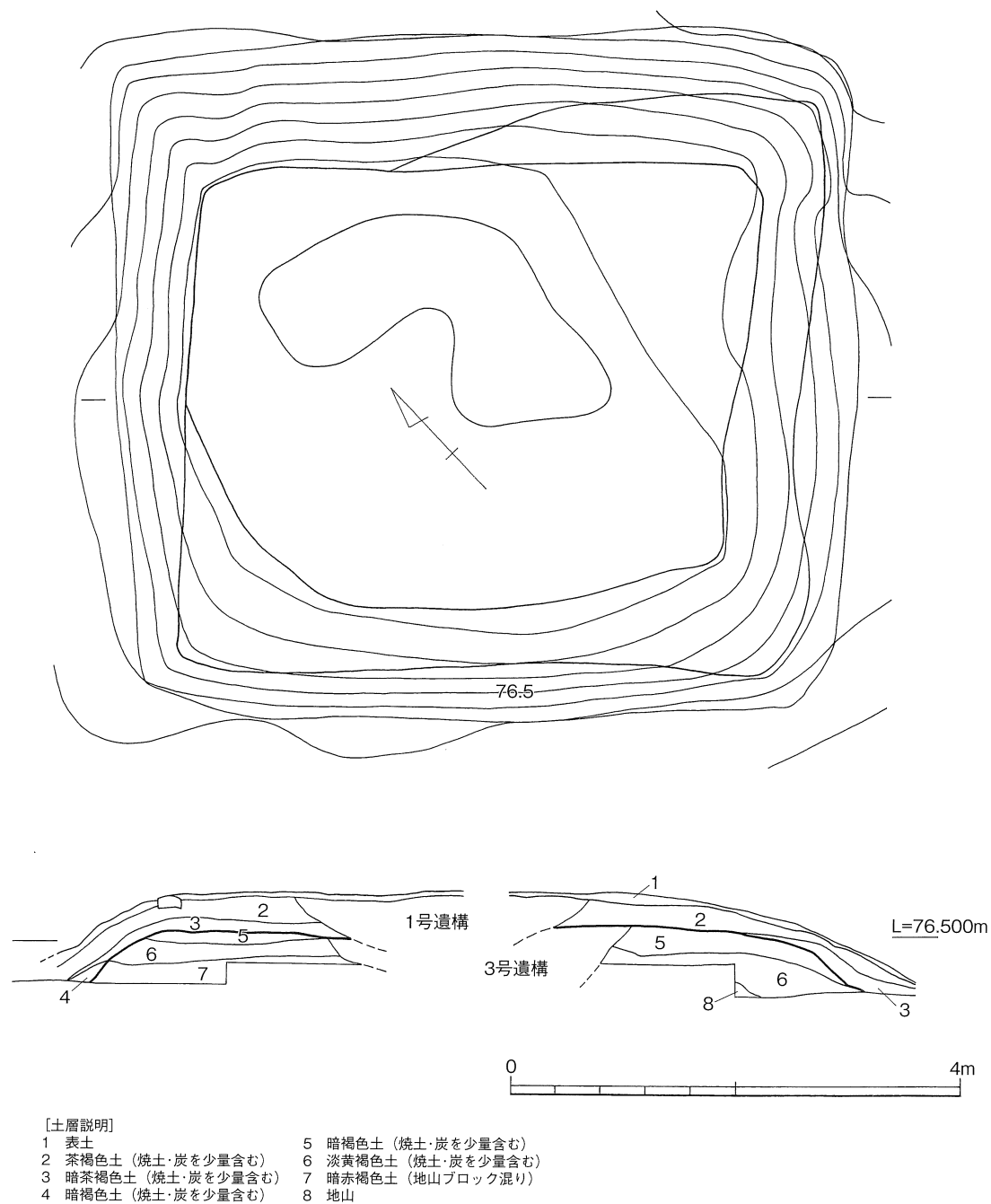
また、塚の裾周辺についても調査を行ったが、周溝等の施設は確認されなかった。

塚上面及び斜面については、上面の縁辺部を中心に石がみられた。また一部斜面にも石が確認されたが、これは上面からの崩落と考えられ、基本的に斜面及び裾まわりに施設はなかったものと思われる。

(2) 盛土について (第17図)

塚は、一度大きくかさ上げが行われている。当初のものは、赤褐色の地山上に、0.1m~0.4mの厚さの層を積み上げる。いずれも焼土や炭を微量含むもので、層は比較的しまっている。この段階の面(第2面)には石列等はみられず、建物があったかは不明であるが、中央に施設(3号遺構)を掘り込む。

さらに、この上に、2層にわたり炭混じりの層を0.4m積み上げ、塚のかさ上げを行う。この面(第1面)にも中央に施設(1号遺構)を掘り込み、塚の上面を覆うように建物を設けたものと推定される。



第17図 内無川2地区塚及び塚断面土層図 (1/60)

3 第1面の遺構について (第18図)

第1面では、0.2m~0.5mの石が確認された。石は上面の縁に沿うようにみられ、東北辺と北西辺はややまとまって残っている。また、南隅にもみられることから、本来は第1面の縁に沿い全周していたものと推定される。ここで使用されていたと思われる石が、斜面上に崩落したり、北隅では集積された状況でみられる。

この石列については、建物の基礎に関連するものと想定される。塚上面に、何らかの建物が存在したものと考えられる。

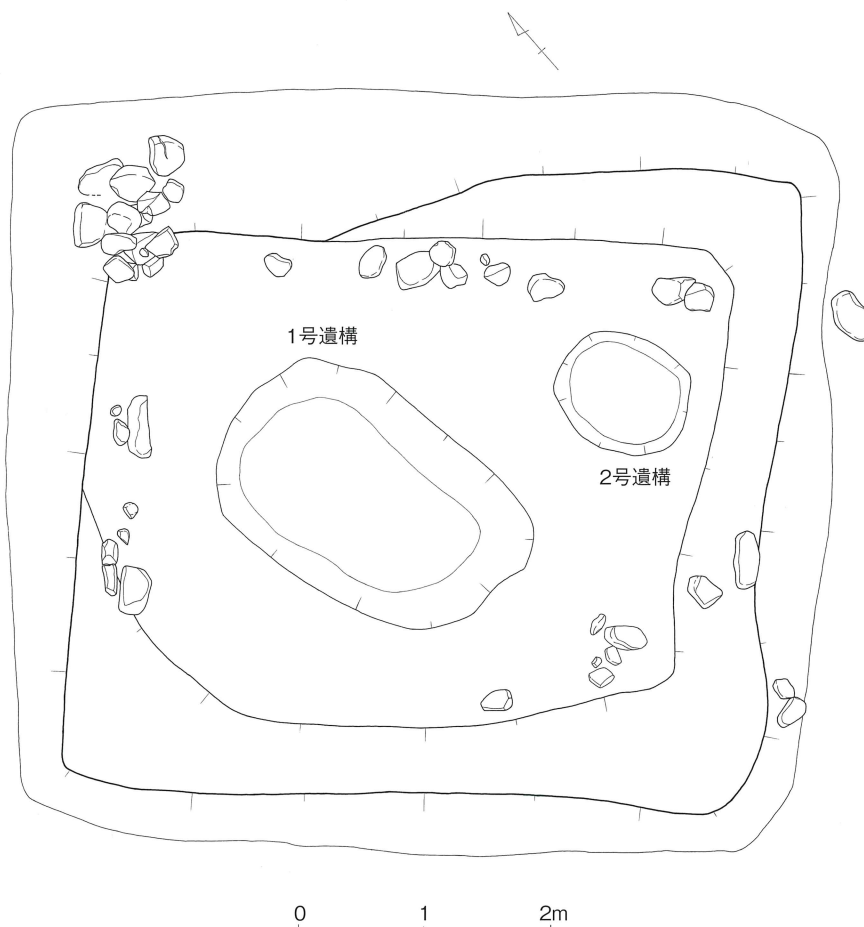
塚全体を覆う5cm~10cmの表土層を除去すると、暗茶褐色土層があらわれる。第1面の遺構は、この面で検出される。検出された遺構は1号遺構と2号遺構である。

(1) 1号遺構 (第19図)

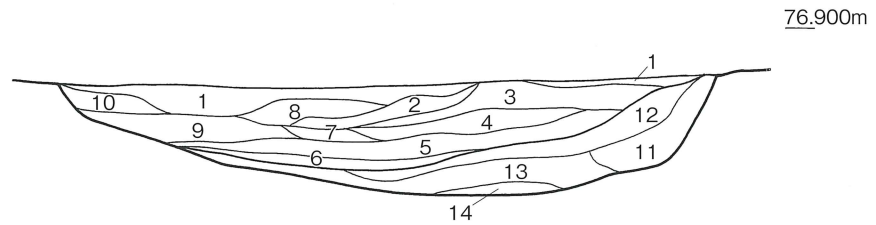
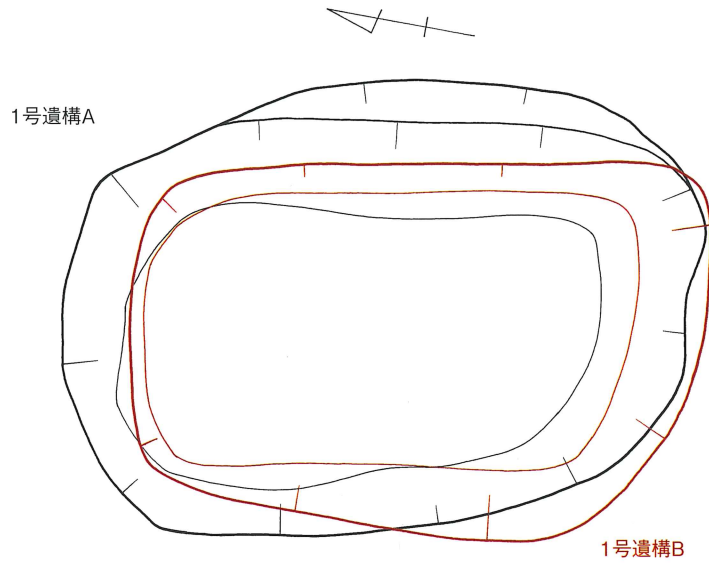
1号遺構は、塚中央部で検出された。遺構は長方形基調を呈するもので、その主軸が塚の対角線上にのる位置にある。主軸方位は、ほぼ南北方向である。

この1号遺構は、ほぼ同じ位置での掘りなおしが認められ、新しい方を1号遺構A、古い方を1号遺構Bとする。

1号遺構Aは、表土層直下で確認されたもので、その規模は、長さ2.6m、幅1.3m~1.6m、深さ0.3mである。壁の立ち上がりは緩やかで、場所によっては、床面から皿状に立ち上がる。床面は、1号遺構Bの埋土中に形成されており、緩やかな傾斜をもつ。埋土には炭化物を多く含み、



第18図 内無川2地区第1面の遺構 (1/60)



[土層説明]
1号遺構A

- 1 明褐色土(炭まじり)
- 2 明赤褐色土(焼土多)
- 3 明赤褐色土ブロック(焼土多)
- 4 暗褐色土(炭化物多)
- 5 黒褐色土(炭化物含む)

- 6 褐色土(若干の焼土・炭化物)
- 7 灰褐色土
- 8 暗褐色土
- 9 暗褐色土(焼土・炭含む)
- 10 暗褐色土

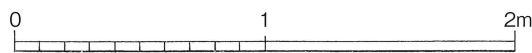
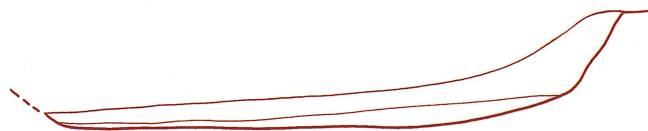
1号遺構B

- 11 褐色土(炭・焼土含む)
- 12 明褐色土
- 13 暗黄褐色土
- 14 炭化物層

1号遺構A



1号遺構B



第19図 内無川2地区1号遺構 (1/30)

一部には焼土もみられる。壁については被熱による変色がみられるが、それほど顕著に観察されない部分も多い。また、床面は被熱による変色あまり認められない。時期を決定できる遺物は、全く出土しなかった。

出土した炭化物によるC14年代測定を行い、1800CalAD-1940CalADという測定結果が得られた。

1号遺構Bは、当初に掘られたものである。その規模は、2.0m~2.2m、幅1.2m~1.5mである。本来の掘り込み面は、1号遺構Aと同じで、深さは1号遺構Aよりやや深く0.45mである。壁の立ち上がりは、1号遺構Aと同様な形態を示し、緩やかに皿状に立ち上がる部分と比較的急な立ち上がりを示すところがある。床面は平坦でなく、緩やかな傾斜をもつ。埋土には炭化物や焼土を多く含む。時期を決定できる遺物は出土していない。

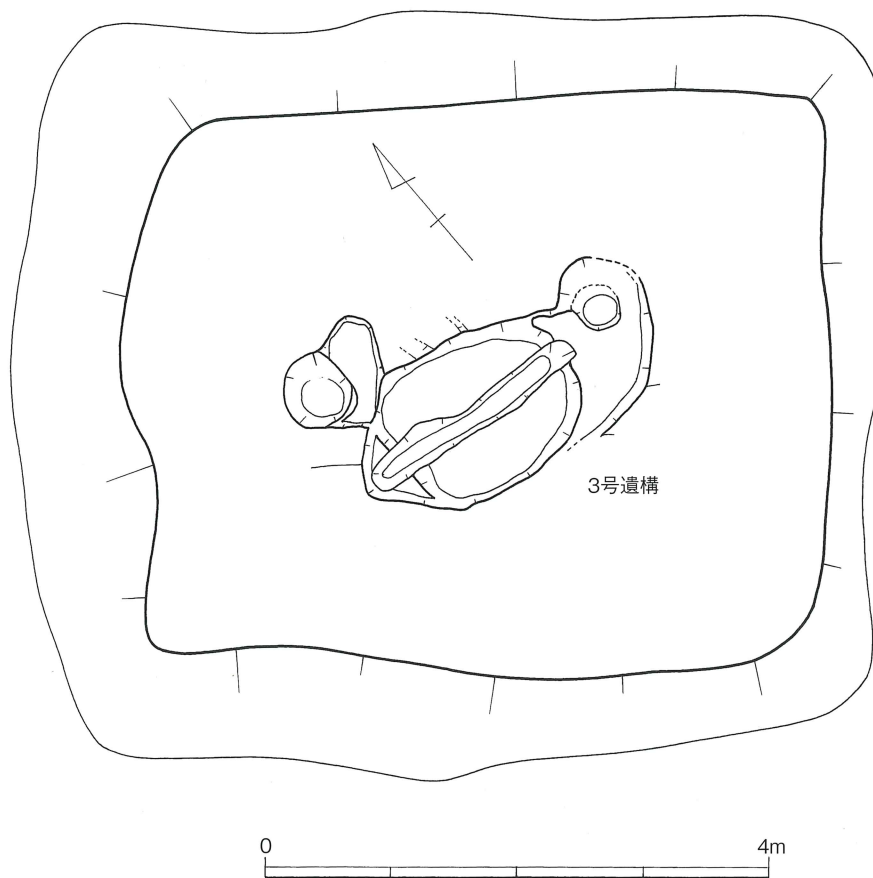
(2) 2号遺構

1号遺構の東側にあたる東隅に近い位置で検出された。

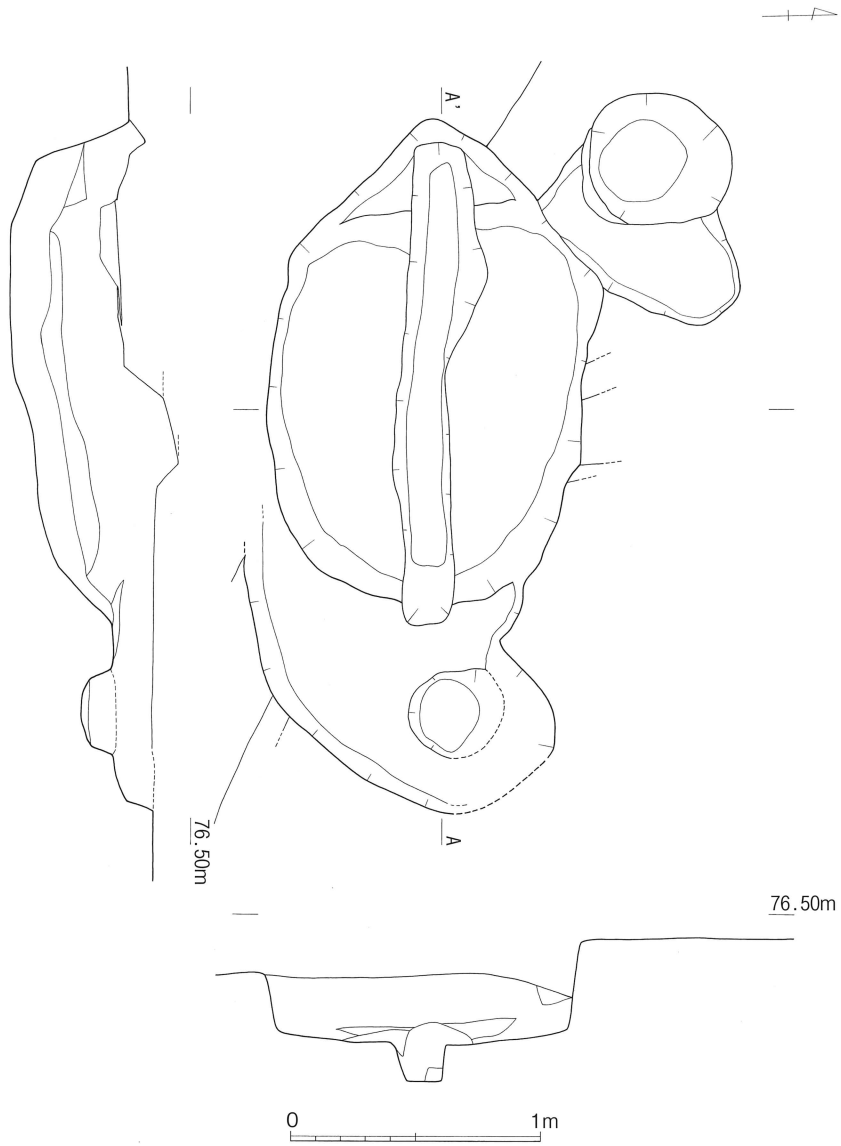
遺構は楕円形を呈するもので、やはり長軸を南北にもつ。規模は長径1.1m、短径0.9m、深さ0.1mである。埋土は、炭化物混じりの土であるが、1号遺構のような熱による被熱は壁などに認められなかった。遺物の出土はなく、時期は不明である。

4 第2面の遺構について (第20図)

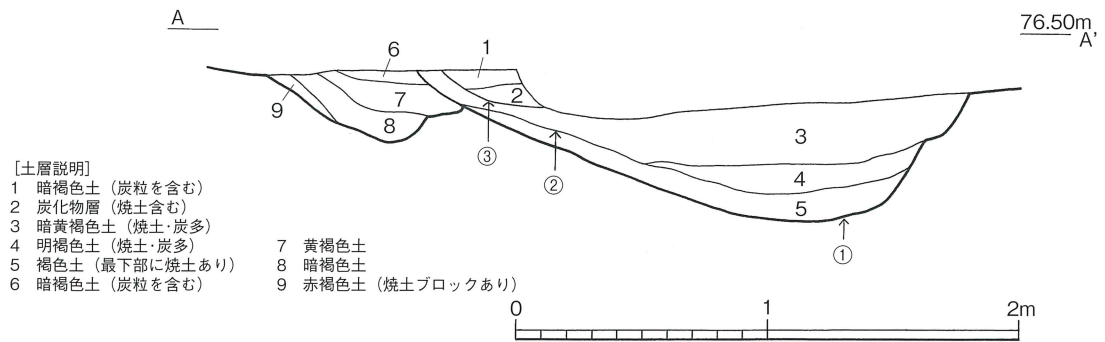
第1面の調査を終了した後、盛土の掘り下げを行った。掘り下げは、土層を観察しながら盛土を一層ずつ剥いでいった。その結果、第1面から0.4mほど掘り下げた暗褐色土層上面(第2面)で、遺構の掘り込みがあるのを確認した。



第20図 内無川2地区第2面の遺構 (1/60)



第21図 内無川2地区3号遺構 (1/30)



第22図 内無川2地区3号遺構土層図 (1/30)

(1) 3号遺構 (第21図)

第2面には、第1面の遺構である1号遺構の掘り込みが及んでいたが、1号遺構と重複する位置で3号遺構を確認した。

3号遺構は長楕円形の平面プランを呈し、その主軸が塚の対角線上にのる位置にある。主軸方位は東西方向である。第1面の1号遺構も主軸が対角線上にのる位置にあったが、その方位は南北方向で、3号遺構とは直交する。しかし、方位が異なるとはいえ、塚の対角線上に主軸方位をとる点は、第1面と第2面で共通する。

遺構は、長さ2.75m、最大幅1.25mである。このうち東側から0.8mは、第2面から0.15m下がりで平坦面を形成する。この平坦面に続き、長さ1.95m、幅1.25mの楕円形の掘り込みがあり、床面は東側から西側へ向かい緩やかに下る。西の端はやや尖り気味の平面形態を呈し、床面より一段高い三角形の平坦面となる。楕円形の掘り込みの中軸線上には、幅0.2m～0.4m、深さ0.1m～0.2mの溝状の掘り込みがみられる。溝状の掘り込みの床面は、東から西に向かい緩やかに下り、西の端でわずかに上がる。また、楕円形部分の壁は、被熱により変色した箇所が一部みられる。

本遺構には、大きく3面の作業面が認められる(第22図)。①面は遺構築造時の全てを使用している。②面は、東側の一段下がった平坦面と、中央の溝状の掘り込みが埋まる。楕円形部分のみで、溝状の掘り込みがない状態で作業を行っている。平坦面部分の大半と溝状の掘り込みは、炭化物や焼土を含まない土で埋まっており、意図的に埋めた可能性がある。③面は楕円形部分の大半が埋没した段階で、深さは0.1m程である。③面の段階の遺構は、第1面から掘り込まれた1号遺構によりその大部分が切られている。

なお、本遺構出土炭化物によりC14年代測定を行い、1800CalAD-1940CalADという結果を得た。

3 小 結

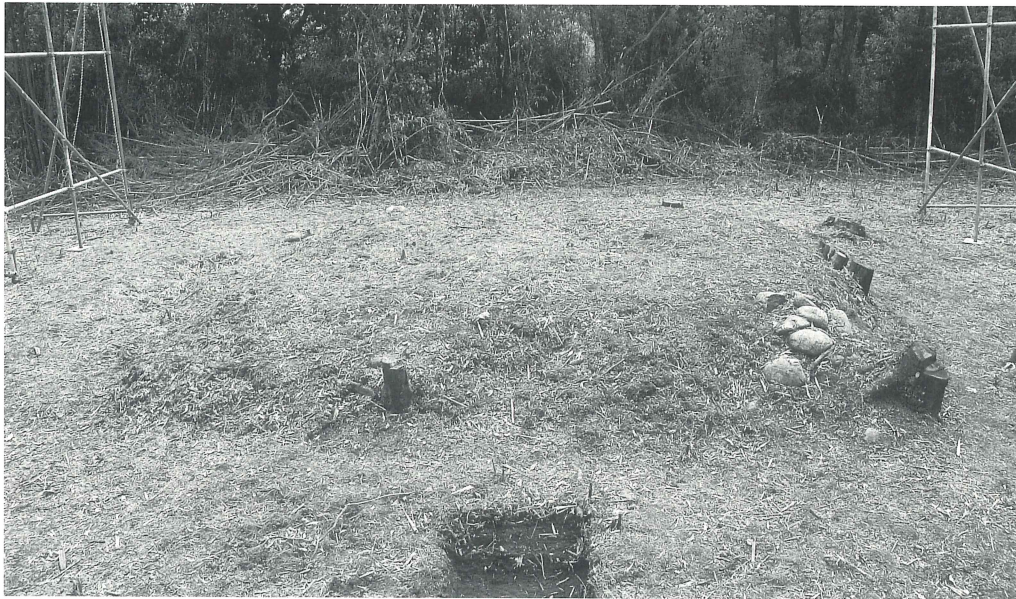
本遺跡は方形を呈する塚で、2面(第1面、第2面)の遺構面が確認された。すなわち、第2面の遺構面に0.4mの盛土が行われ、第1面の遺構面が形成される。各遺構面の中央には各々遺構がみられ、いずれも塚の対角線上に主軸をもつ。

第1面の1号遺構、第2面の3号遺構は形状に違いがあるものの、以下のような共通点を有する。①炭や焼土を多く含む。②遺構の壁の一部に、被熱による変色がみられる。しかし、被熱の変色は表面にとどまる。③規模は長さ2.5m前後、幅1.3～1.6mである。④遺構内からは、人骨や遺物は出土していない。⑤ほぼ同位置での作り替え(1号遺構)や遺構内に数度の作業面を有する(3号遺構)。

①、②から、遺構内で火が燃やされたことが分かる。しかし、壁の被熱による変色がそれほど顕著でないことから、それほど高温ではなかったと思われる。③から分かるように、炭窯としては規模が小さすぎる。しかし④から遺構そのものが埋葬施設である可能性は低いと思われ、⑤から同位置や同遺構内で繰り返し作業が行われたことが分かる。

以上から、本遺構は火葬施設であったと考えられ、火葬骨はその度ごとに拾い集められ墓地に埋葬されたものであろう。

写真図版 3



調査前の状況



第1面完掘状況



1号遺構完掘状況



3号遺構完掘状況



3号遺構埋土



塚盛土の状況

第3節 内無川3地区

1 調査の概要

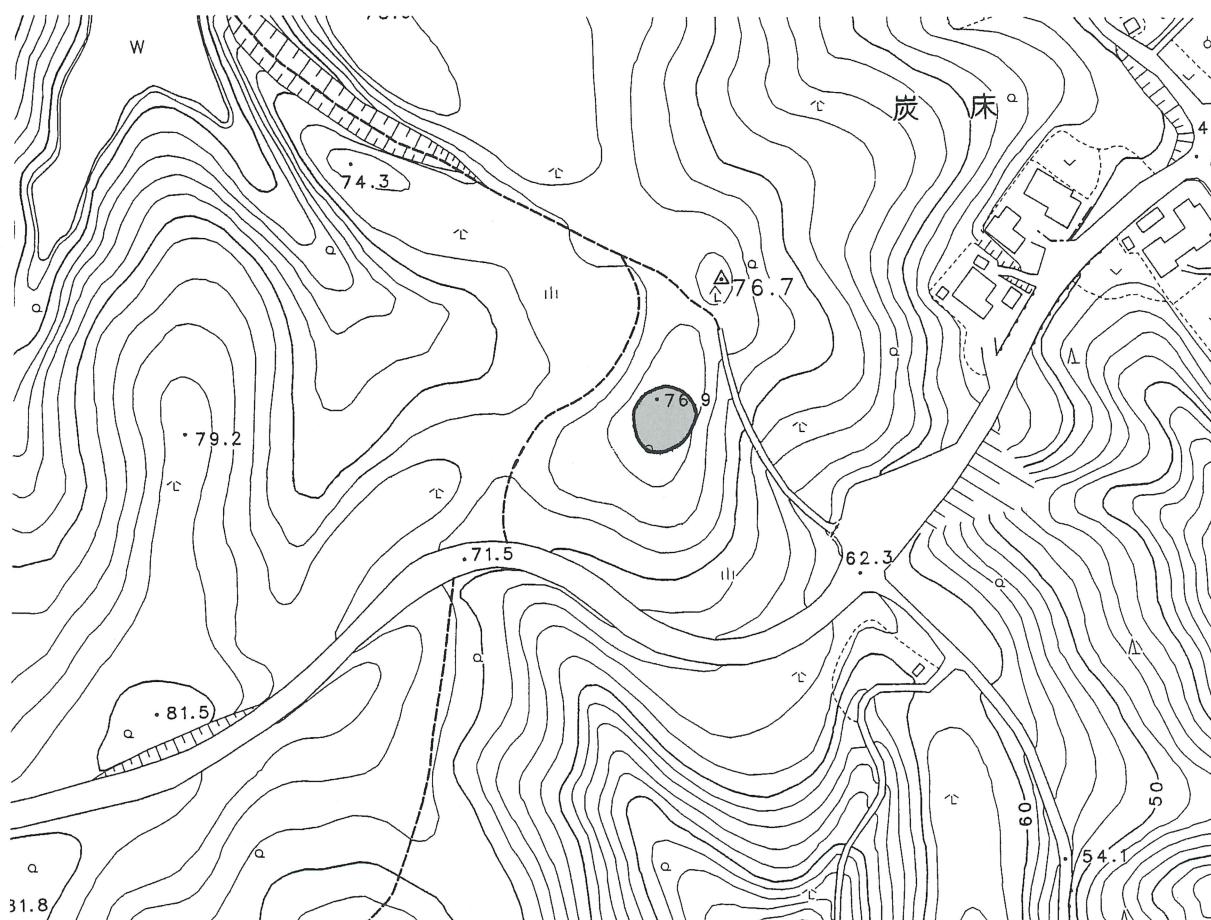
本遺跡は、大分市大字一本字内無川に位置する。

岡遺跡群の西側に広がる丹生台地から派生するように、東西方向に尾根状の丘陵がのびるが、遺跡はこの丘陵上に所在する。丘陵はこの付近で方向を変え、北に向かいさらに数百 m 続く。この東西方向の丘陵上からは、南方の丹生川流域の平野部が見え、上中尾地区（岡1号墳）、林頭地区（岡2号墳）が位置する。

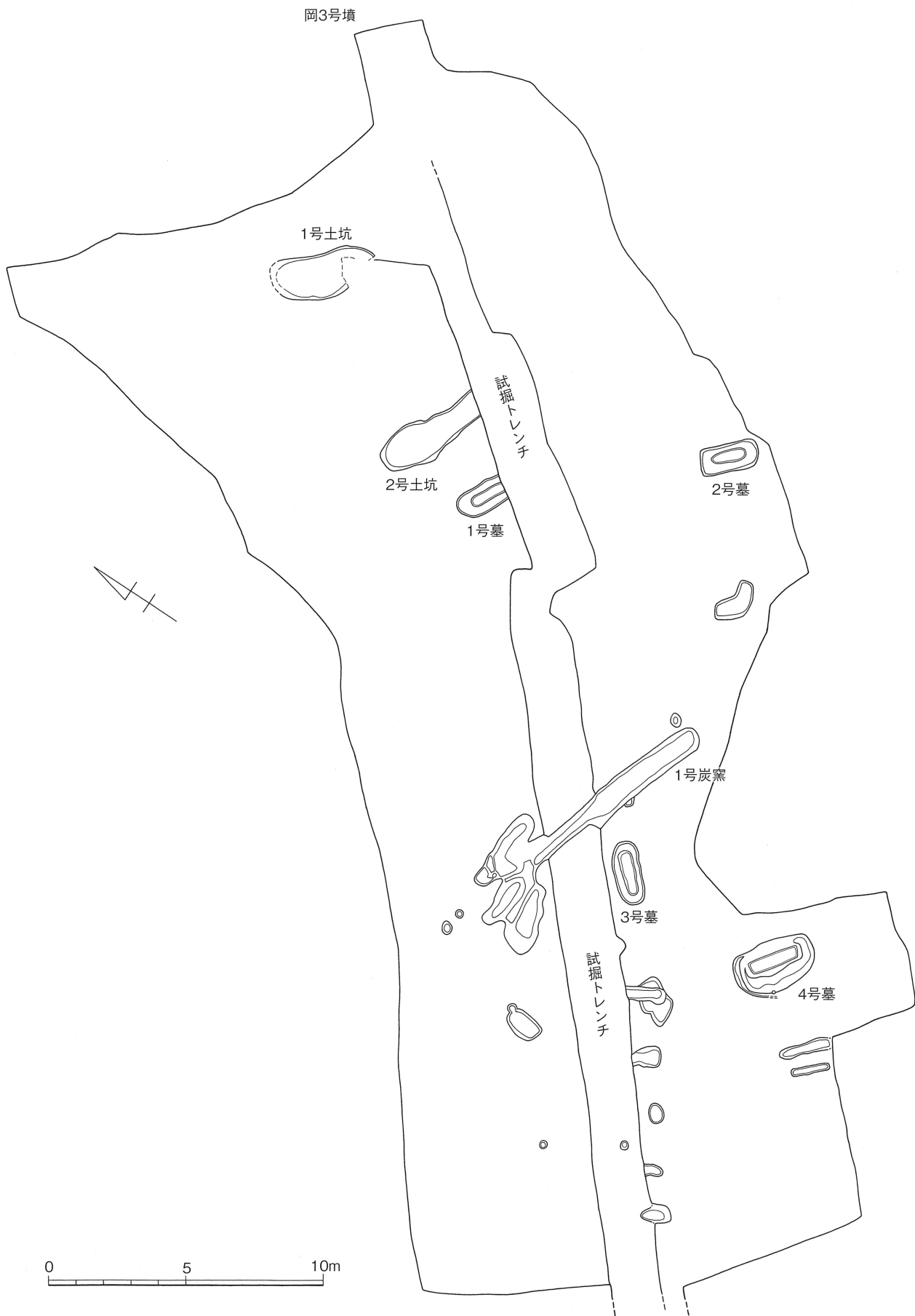
遺跡の北側には、神社を挟み内無川2地区がある。北西方向には、弥生時代の集落である内無川4地区の丘陵が、谷を隔てて見通すことができる。また、南には、やはり弥生時代の集落である善福寺2地区が見える。

調査前は山林となっていたが、分布調査の際に円墳（岡3号墳）とそれに続く平坦面を確認した。円墳は、工事予定地に隣接するものの、予定地外にあたるため調査対象とはならなかったが、平坦面については試掘調査の必要があると判断した。樹木の伐採を行った後に、試掘調査を実施した結果、炭窯と思われる遺構を確認した。そのため、丘陵平坦部を中心に本調査を実施することとなった。

本調査の結果、古代の炭窯1基のほか、弥生時代の土坑2基、墓4基が確認された。当初、炭窯や炭窯に関連する遺構の検出を想定していたが、弥生時代の墓などが点在することが分ったため、予定を変更して調査区を拡張した。



第23図 内無川3地区調査区位置図と周辺地形



第24図 内無川3地区遺構配置図 (1/200)

2 弥生・古墳時代の遺構・遺物

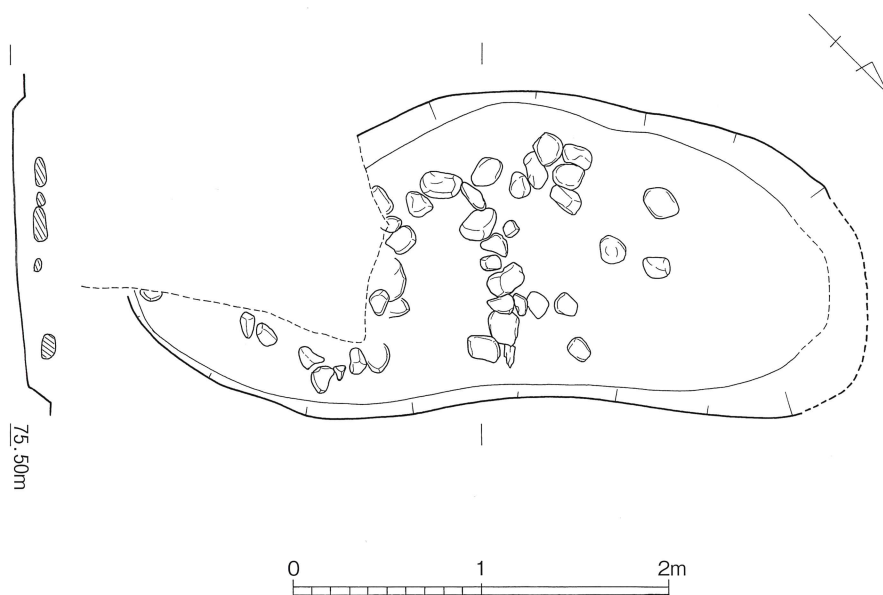
1 土坑

(1) 1号土坑 (第25図)

1号土坑は、南西から南東にのびる丘陵平坦部から、西側に下る斜面部に位置する。

木根と重複するため、全容は必ずしも明確でないが、長楕円基調の平面プランを呈するものと思われる。丘陵尾根部に直交するかたちで長軸をとり、その長さは約4.0m、幅1.6mである。深さは比較的浅く、0.1m余である。

土坑内からは、0.1m～0.2mの円礫等が出土したのみである。土器等の遺物は確認されなかった。時期については不明であるが、同様な状況を示す2号土坑と同じ弥生時代後期に位置付けられるものと思われる。



第25図 内無川3地区1号土坑 (1/40)

(2) 2号土坑 (第26図)

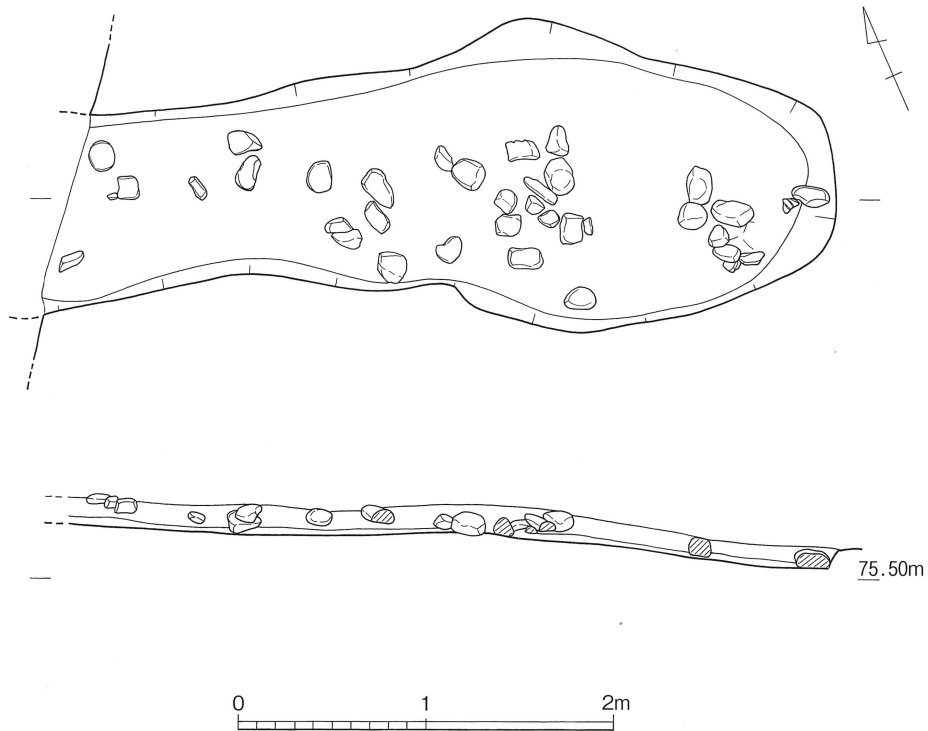
1号土坑の南側5m余に位置する。丘陵平坦部から西側の斜面にかけ細長くのびており、1号土坑と平行するようにみられる。

遺構の平面形は、やや不定形気味の細長いもので、長さ4.2m以上、幅0.9m～1.6mを測る。また、深さは1号土坑同様に、0.1mと比較的浅い。

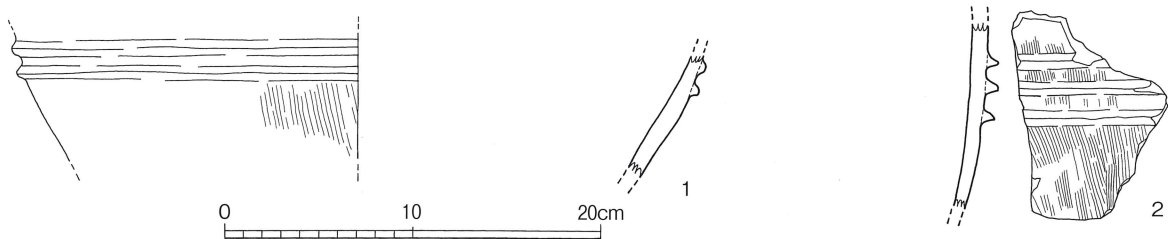
土坑内の円礫は、0.1mほどのものが主体で、やや散在するかたちでみられる。円礫に混じる状況で、土器片がわずかに出土した。

出土遺物(第27図)はいずれも壺である。1は、壺胴部中程から下半にかけてのものである。復元径35.8cmであり、外面に断面三角形の突帯が貼り付けられる。突帯は、現況で2条確認される。外面には縦方向のハケメが施されている。2も壺胴部中程である。外面には断面三角形の突帯が3条貼り付けられる。外面には、縦方向のハケメがみられる。

時期は、弥生時代後期中葉に位置付けられよう。



第26図 内無川3地区2号土坑 (1/40)



第27図 内無川3地区2号土坑出土遺物 (1/4)

2 墓

(1) 1号墓 (第28図)

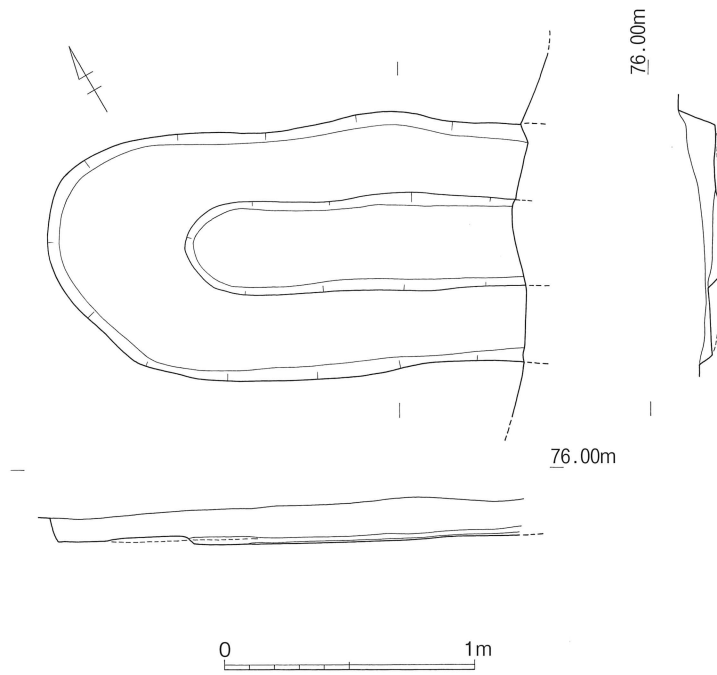
2号土坑の南西約2mに位置する。

墓は二段掘りになっており、全形は長楕円形を呈する。墓は丘陵尾根部と直交し、その主軸は南東-北西にもつ。

規模は、南東部が不明であるが、長さ1.8m以上、幅1.0mである。一段目の掘り込みの深さは、現況で0.1m~0.15mで、その中央部に長楕円形の二段目を掘り込む。二段目の掘り込みは、長さ1.3m以上、幅0.5m~0.6mで、深さは0.05mと浅い。

当初、1号土坑と同様なものであろうと考えて、掘り下げを行っていた。二段目の掘り込みを確認した時点でも、二段目の掘り込みがあまりに浅いため、墓として認定してよいものか躊躇していた。しかし、同様な形態をもつ2号墓から副葬品が出土したことにより、本遺構も墓であることが分った。

副葬品等の遺物はまったく出土していない。



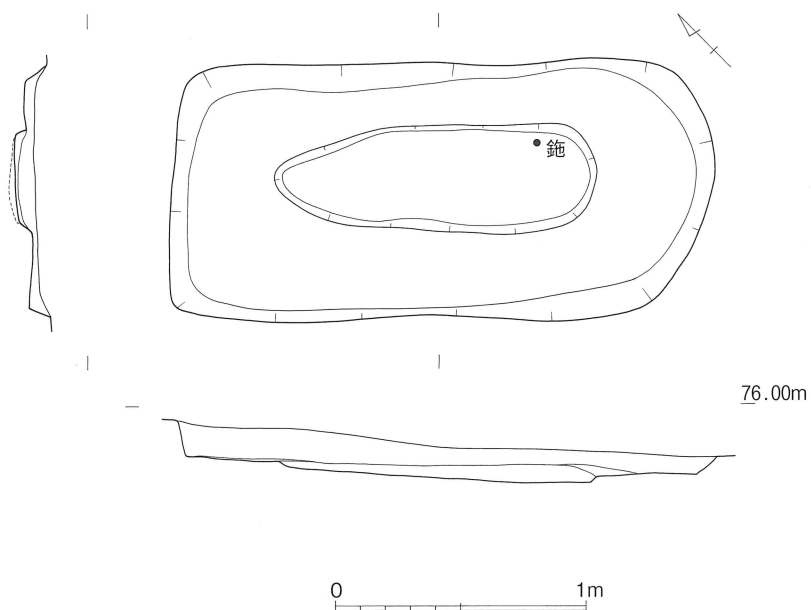
第28図 内無川3地区1号墓 (1/30)

(2) 2号墓 (第29図)

1号墓の南東約7.5mに位置する。

二段掘りの墓で、その主軸を概ね南東-北西にもつ。墓の平面形態は長方形基調を呈し、南東側が丸みをもつ。

規模は、長さ2.15m、幅1.0mで、一段目の掘り込みの深さは現状で0.1m~0.15mである。一段目の中央部に二段目を掘り込む。二段目の掘り込みの平面形態は長楕円形を呈し、北西側がややす



第29図 内無川3地区2号墓 (1/30)



第30図 内無川3地区2号墓出土遺物 (1/2)

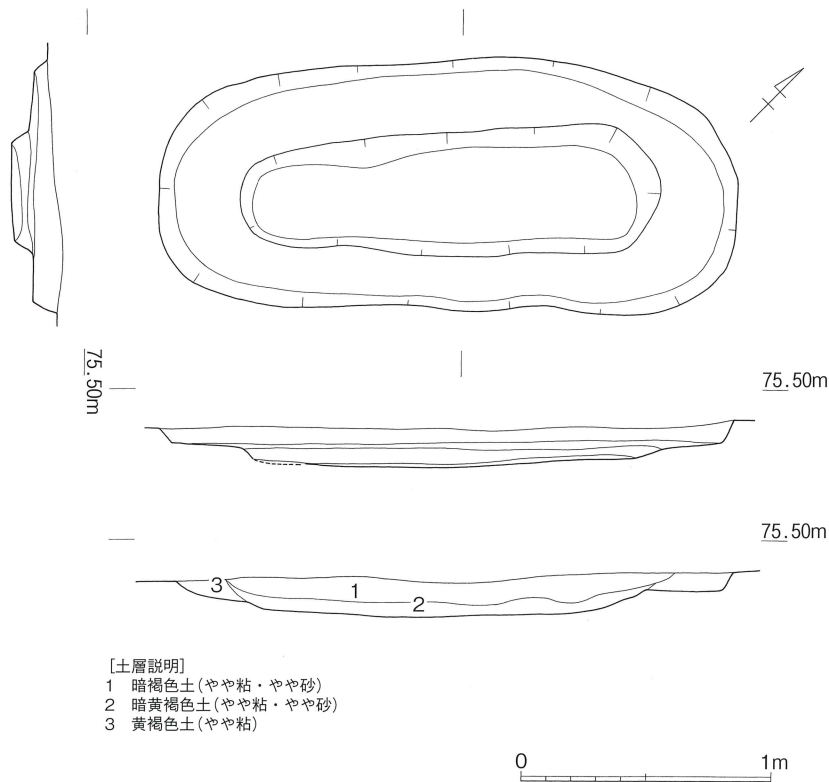
ぼまり気味になる。二段目の掘り込みの規模は、長さ1.25m、幅0.4mで、深さは0.05mと1号墓同様に浅い。

副葬品として、中央から南東側に寄った壁際で鉄製鉞（第30図）が出土した。鉞は長さ約11cmである。

(3) 3号墓 (第31図)

3号墓は、1号墓南西13mに位置する。丘陵尾根部と平行に主軸をもち、その方位は概ね南西-北東である。本遺跡で検出された4基の墓のうち、この3号墓のみが方位を異にする。

やはり二段掘りの墓で、その平面形態は長楕円形を呈する。規模は2.3m、幅1.0mで、一段目の掘り込みの深さは0.05m~0.1mである。二段目の掘り込みは長楕円形を呈し、一段目の中央部に



第31図 内無川3地区3号墓 (1/30)

あり、北東側がやや幅が広い。二段目の掘り込みの規模は、長さ1.7m、幅0.35m～0.5mである。深さは0.05mと浅い。

1号墓、2号墓、3号墓とも二段目の掘り込みが浅く、遺体をそのまま埋葬した墓壙としては考えにくい状況である。土層図をみると、二段目の掘り込みから立ち上がりが確認でき、木棺が安置された可能性が考えられる。

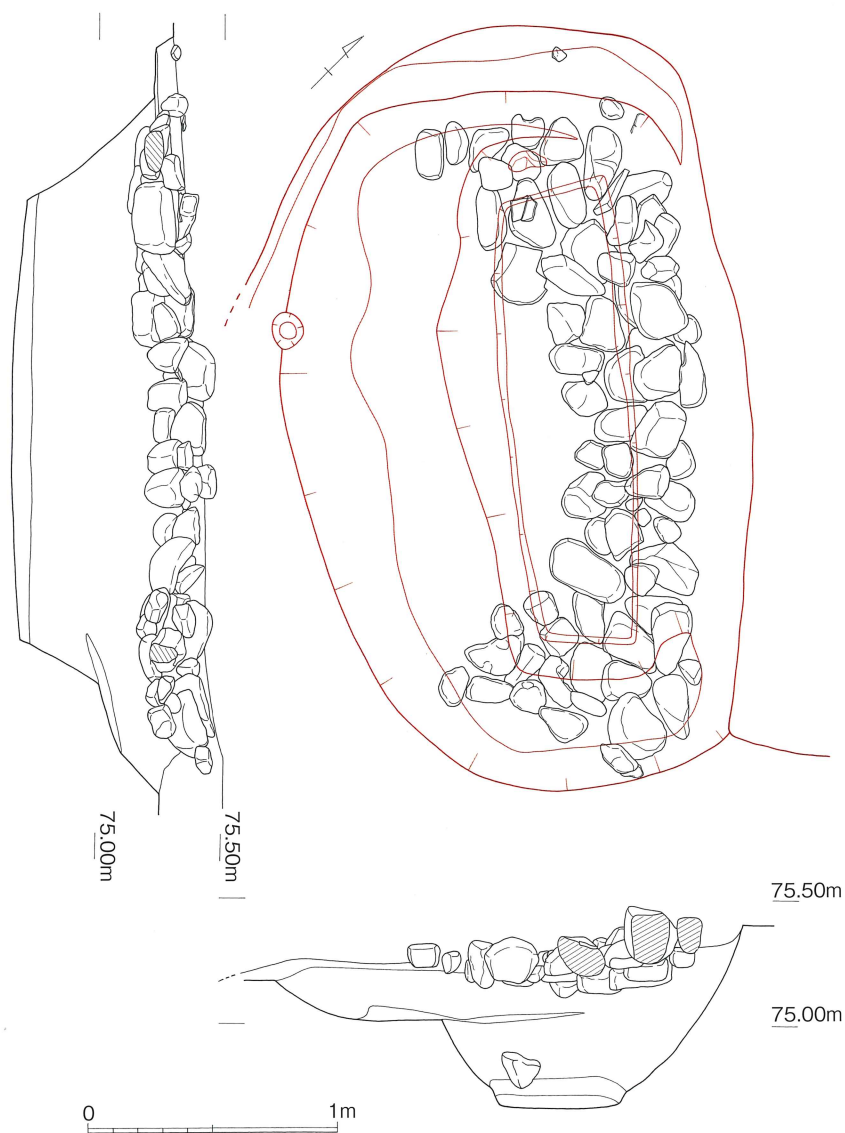
(4) 4号墓 (第32図)

4号墓は3号墓の南約5mに位置する。

二段掘り状の形態を呈し、主軸を南東-北西にもつ。その規模は、長さ3.05m、最大幅1.85mで、平面形態は丸みをもつ長方形である。

南西側は0.2m下がり平坦面が形成されるのに対し、北東側は平坦面をもたず、0.2m～0.3mのやや大型の円礫が主体部に沿うようにみられる。これらの円礫は下部には及ばず、上面にのみ置かれた状況である。

二段目の掘り込みは、長さ2.15m、最大幅1.2mで、深さ0.3m～0.5mである。床面は比較的

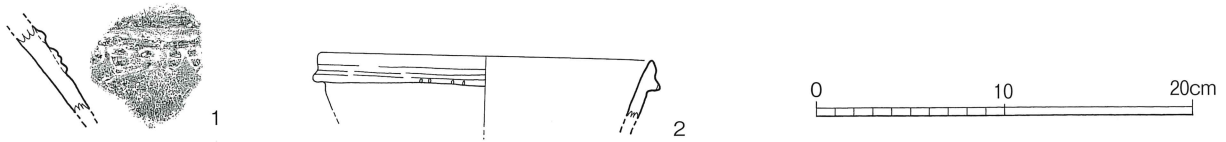


第32図 内無川3地区4号墓 (1/30)

しっかりした長方形を呈しその規模は、小口部が0.4m~0.45m、最大幅0.5m、長さ1.8mである。

二段掘りの墓壇に長方形の木棺を据えた後に埋め戻し、上部に円礫を配したものと考えられる。副葬品は確認されなかったが、円礫に混じり土器片が出土した。

出土遺物（第33図）は、いずれも弥生土器である。1は壺の頸部である。やや低い突帯を貼り付け、その下部に浮文を付す。2は下城式の甕である。



第33図 内無川3地区4号墓出土遺物 (1/4)

(5) 岡3号墳 (第34図)

調査区の北東側に隣接して位置する。

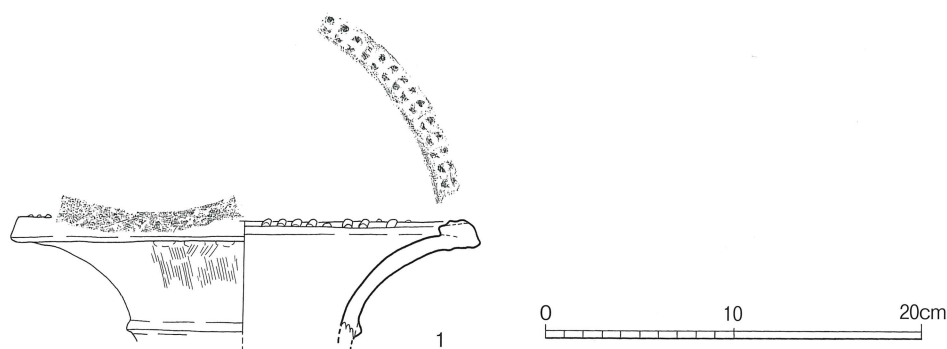
径約15mの低墳丘をもつ円墳と思われるが、北東側の裾は熊野神社への道のため削平されている。本来調査区内にも及んでいたと思われるが、調査区との境界に幅1mの溝が掘られるなど、調査区内では削平が著しく墳丘は残存していない。



第34図 内無川3地区岡3号墳 (1/100)

調査では、古墳に関連する遺構の検出に努めたが、まったく確認することはできなかった。しかし、墳丘の中央部を掘削したと思われる溝やその周辺から、多量の円礫が集中して確認された。円礫は0.1～0.3mで、原位置を保つと思われるものはなかった。円礫に混じり結晶片岩の板石も出土しており、本位置に主体部があった可能性が極めて高い。

関連する遺物については、溝に集められた円礫中から弥生土器が少量出土したのみである。出土遺物(第35図)のうち、1は二重口縁壺の口縁部である。口縁上面には、勾玉状の浮文が付される。



第35図 内無川3地区岡3号墳周辺出土遺物 (1/4)

3 古代の遺構・遺物

試掘調査の際に、炭窯の一部が調査トレンチで確認された。そのため、他の炭窯や関連の遺構・遺物の検出が期待された。しかし、他の遺構・遺物は検出されなかった。

1 炭窯

(1) 1号炭窯(第36図)

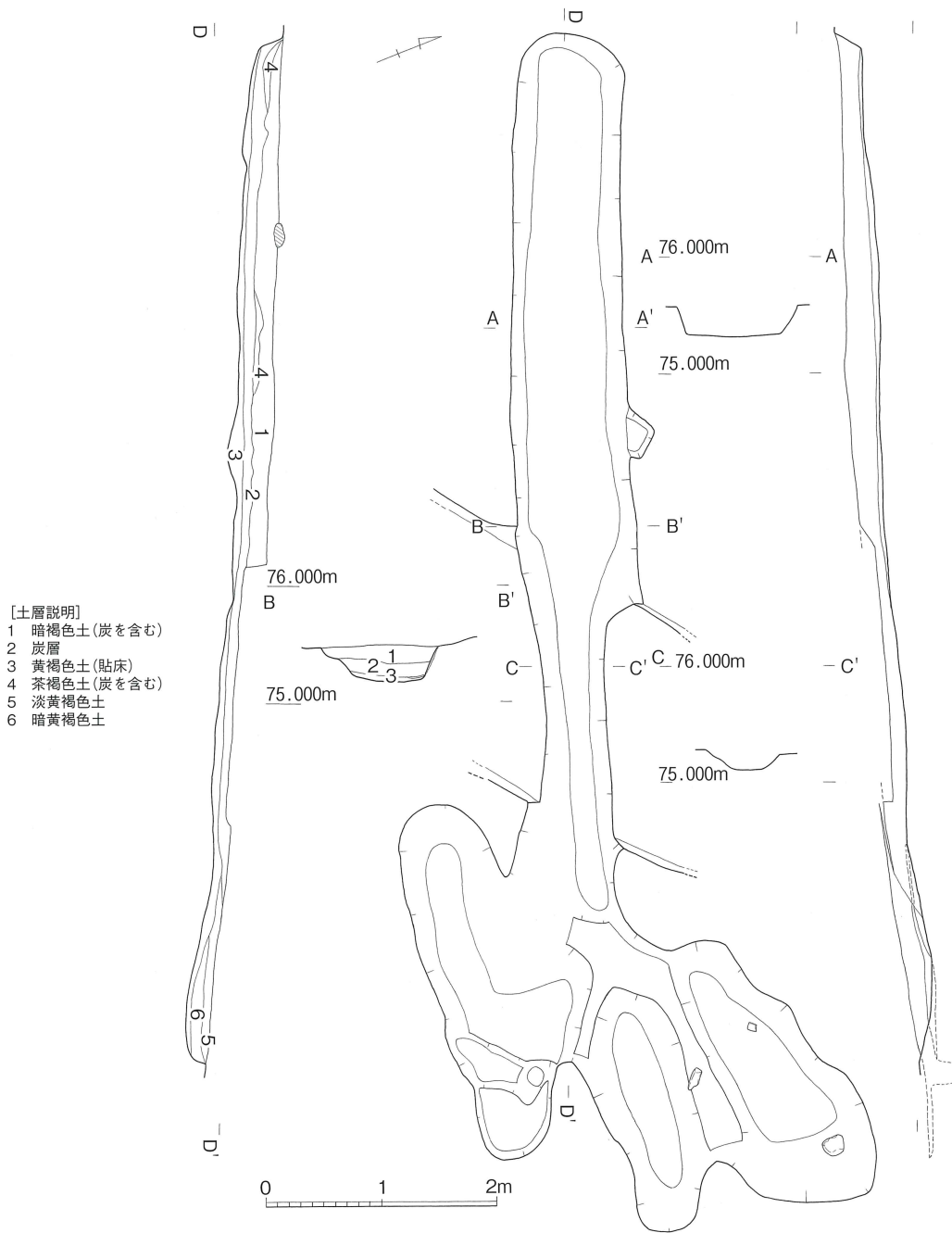
調査区のほぼ中央付近で確認された。

丘陵斜面に対し垂直に築造される長大なもので、主軸を東西方向からやや振った位置にとる。大きく燃焼部と前庭部に分けられる。

燃焼部は、長さ約7.0m、幅約1.0mである。地山を掘りくぼめた後、やや凹凸をもつ底部に橙褐色土ブロックを含む黄褐色土で貼床し、床を平坦に仕上げている。床面は緩やかに傾斜し、その角度は約5°である。床面上には最大5cmの厚さの炭層がみられるが、その大半は粉状あるいは細かなのもので、木の形状を残すものは少ない。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、被熱による色調の変化が、厚さ数cmに及ぶ。被熱による色調の変化は、床面ではそれほど顕著に認められない。また、先端部についても特に目立った施設等は確認されなかった。

前庭部では、長楕円形の土坑状のものがいくつかみられる。床面の傾斜は約10°で、燃焼部よりもややきつくなる。また、燃焼部でみられた床面上の厚い炭の堆積は確認されず、前庭部の埋土にも炭はあまり含まれない。この前庭部には土坑状の掘り込みがあり、作業スペースとしての平坦面が確保されていない状況である。

本炭窯からは、時期を決定し得る土器等の出土遺物はなかったが、燃焼部出土の炭によるC14年代測定により、980CalAD-1160CalADという結果が得られた。よって、本炭窯は平安時代後半のものであることが分った。



第36図 内無川3地区1号炭窯 (1/60)

4 小 結

本遺跡の調査により確認されたことを、以下に記す。

- ① 本遺跡からは、弥生時代～古墳時代の住居は確認されておらず、墓域として利用されていた。
- ② 岡3号墳を除く墓には、木棺が使用されていた可能性が高い。
- ③ 古墳時代の後は、平安時代後半に炭窯が築造され、炭焼きが行われたが、それ以降については顕著な土地利用の痕跡は確認できなかった。

写真図版5



調査区全景



1号炭窯完掘状況



1号土坑



2号土坑



1号墓



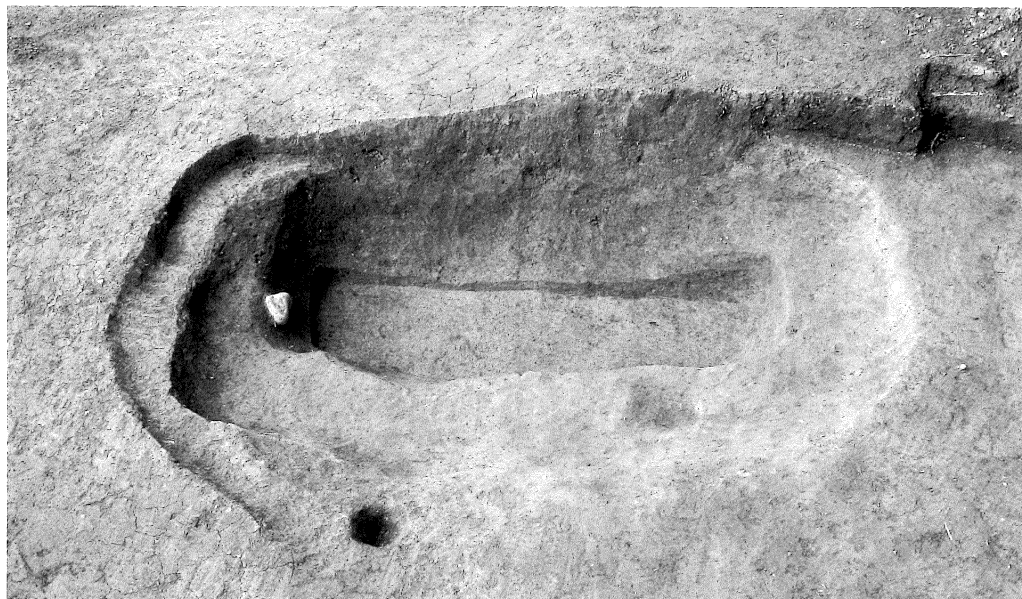
2号墓



2号墓
遺物出土状況



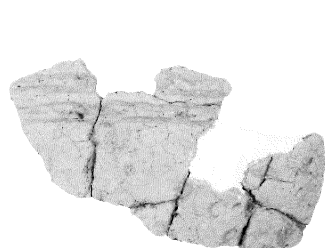
4号墓上面



4号墓 完掘状況



岡3号墳
円礫集積状況



(第27図 1)



(第27図 2)



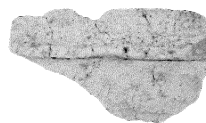
(第35図 1)



(第35図 1)



(第33図 1)



(第33図 2) 出土遺物